



研究者総覧07



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies

研究者総覧07

新潟国際情報大学の教育研究者総覧（2007）について

本学は平成6年の春に開学し、14年目を迎えました。平成3年からの大学設置基準の大綱化の中で、21世紀に向けて開学した大学であります。

大学創立の理念と目的から、国際的視野を持ちながら国際化、情報化された我が国の社会で役立つ、意欲あり、健全で人間性豊かな人物を育成することを目的としております。情報文化学部1学部の下に情報文化学科と情報システム学科の2学科があります。情報文化学科では、全学生の実用英語は必修で、このほかに英語、中国語、韓国語、ロシア語の中の何れか一ヶ国語を選択し、5ヶ月間の当該国大学留学を含めて習得します。同時に、異文化・社会を我が国の文化・社会と対比しつつ理解し、社会で役立つ人物を育成することを目的としております。一方、情報システム学科では、実際に役立つ濃厚な英語学習を全学生に必修とし、カナダの大学への短期留学では英語を学ぶと共に現地企業で情報システムの実際を学びます。そして、本校でグローバルに構築されつつある情報システムの理論と実際を会得し、社会の種々の分野でのその実際的応用を学び、社会でその能力を活用しうる人物を育成することを目的としております。

また両学科において、教養教育と少人数教育により、心温かく、人間性豊かな人材の育成を心掛けています。

このような大学の理念に従い、目的を完遂すべく教職員の人達が集まりましたが、情報文化学科には米国、中国、韓国、ロシア出身の教員もおり、この人達は日本語も普通に話しています。情報システム学科では企業出身の教員が多いのも特徴であります。本学は総合大学ではなく、設置学科数も限られていますので焦点を絞って教育を行うことが出来ます。学生諸君にとって大変恵まれた教員構成ではないかと思います。職員の人達は比較的若い人達が多く、本学の益々の発展を心に留めて努力しておりますが、機会に応じ大学の経営、運営などに関連する会議や勉強会に出席しております。

貴重な経験を持つ教職員が多いため、新潟県内外の諸大学の非常勤講師、県内官公庁の委員会委員、新潟県及び県内市町村の生涯学習や講演会の講師などを務める人達も多く、企業からの相談を受ける人もあります。また本学の新潟中央キャンパス（新潟市中央区上大川前通7番町、桤谷小路角）では4年次生を主とする教育、研究のほか、平成16年春からこ

の中の新潟国際情報大学エクステンションセンターでは生涯学習講座を開設しています。1年を前期・後期に分け開設していますが、大変好評で沢山の社会人、学生の人達が参加しております。本年度前期には57講座が開講されます。

この研究者総覧は本学の教員同士がお互いを知るため、同時に本学の職員、学生が教員の人達を知るのに役立つのは申すまでもありませんが、それよりも、他大学及び高等学校の教職員の方々や、新潟県内外の企業や官公庁の方々など沢山の方々に本総覧をご覧頂き、本学の教員を知って頂きたいのであります。ご意見、ご相談、ご希望がございましたら遠慮なく本学宛、ご連絡頂きたいと存じます。

以上、本学の教育研究者をご紹介申し上げますと共に、本学の近況について触れさせて頂いた次第であります。

2007年4月

新潟国際情報大学長 武藤輝一

凡 例

収録内容


平成 19 年 4 月 1 日現在で本学に在職する専任の教員（教授，准教授，講師並びにインストラクター）を収録し，記載事項については，平成 19 年 4 月 1 日現在のものとした。

掲載順

学長並びに本学を構成する教員を学科毎に掲載し，その所属ごとに教授，准教授，講師，インストラクターの順とした。

掲載事項

氏 名 フリガナ ローマ字を付記。
 性 別 男・女の別を記載。
 生 年 月 日 西暦で記載。
 職 名 現在の職名及び（ ）書きで就任年月を記載。
 学部長，学科長にあつては，その職名を記載。
 連 絡 方 法 Eメール（電子メール）アドレスを記載。
 学 歴 大学等及び大学院を記載。なお，大学院博士課程の単位取得満期退学も記載。
 学 位 学位名，授与大学名，取得年月を記載。
 職 歴 職名，在職期間を併記。（間近の経歴を含む。）
 受 賞 歴 主要な経歴学術に関する受賞状況について，賞の名称，受賞年月を記載。
 研 究 分 野 現在の研究テーマについて記載。
 主 要 業 績 過去に発行した著書・学术论文のうちから主なものをその題名，発行年月，誌名・発行所を記載。
 所 属 学 会 主なものを記載。
 そ の 他 所属する委員会や研究会等，特記すべき事項を記載。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
	氏 名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	性 別 ○
	生 年 月 日 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	職 名 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
連絡方法	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
学 歴	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
学 位	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
受 賞 歴	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
研究分野	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
主要業績	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
所属学会 その他	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

目 次

学長	5
情報文化学科	8
臼井 陽一郎	10
區 建英	11
小澤 治子	12
越智 敏夫	13
小山田 紀子	14
澤口 晋一	15
申 銀珠	16
高橋 正樹	17
グレゴリー ハドリー	18
アレクサンドル プラーソル	19
安藤 潤	20
熊谷 卓	21
小林 元裕	22
佐々木 寛	23
長坂 格	24
矢口 裕子	25
吉澤 文寿	26
池田 嘉郎	27
キャロリン カルテンバック	28
ハワード ブラウン	29
情報システム学科	30
赤木 敏子	32
大竹 康夫	33
岸野 清孝	34
近藤 進	35
笹川 壽昭	36
高木 義和	37
竹並 輝之	38
槻木 公一	39
永井 武	40
樋口 光明	41
藤瀬 武彦	42
山口 直人	43
渡辺 忠	44
石井 忠夫	45
桑原 悟	46
小宮山 智志	47
吉田 博	48
大山 毅	49
小野 陽子	50
河原 和好	51
佐々木 桐子	52
山田 尚史	53



学 長

氏 名	ムトウ テルカズ 武藤 輝一 MUTO Terukazu
性 別	男
生 年 月 日	1929年8月5日生
職 名	学長（2000年4月）
連 絡 方 法	E-mail：muto@nuis.ac.jp
学 歴	1954年 新潟大学新潟医科大学医学科卒業 1959年 新潟大学大学院医学研究科博士課程修了
学 位	医学博士（新潟大学、1959年3月）
職 歴	1970年10月～1992年9月 新潟大学医学部教授 1987年 6月～1989年6月 新潟大学医学部付属病院長 1989年10月～1992年1月 新潟大学医学部長 1992年 2月～1998年1月 新潟大学学長 1998年 4月～2000年3月 長岡赤十字病院長 2000年 4月～新潟国際情報大学学長 2005年12月～学校法人新潟平成学院理事長
受 賞 歴	第35回新潟日報文化賞（1982年）

研究分野	消化器外科学、外科学一般 1.消化器癌の外科 キーワード：消化器外科、癌 2.外科領域における代謝と栄養 キーワード：外科、代謝、経静脈栄養、経腸栄養
主要業績	著書 ①『新外科学体系』30巻・52冊、編集・執筆、東京、中山書店、1993年1月 ②『標準外科学』第1版－第8版、監修・編集・執筆、東京、医学書院、1976年6月－1998年5月 論文 ①「これからの外科系専門医制度」日本外科学会雑誌 102巻3号、291-293頁、2001年3月（単著） ②「21世紀での胃癌撲滅に向けて」学術の動向 6巻12号、86-88頁、2001年12月（単著） ③「術者の心構え」外科 64巻3号、342-342頁、2002年3月（単著） ④「言葉の遣い方」消化器病の臨床 6巻2号、222-223頁、2003年4月（単著） ⑤「消化器病の診療研究に思うこと」書名『消化器病の診療研究に思うこと』編集:寺野 彰、293-294頁、2003年10月、（単著）メディカルビュー社（東京） ⑥「異状死の届出に関連しての提言」日本外科学会雑誌 104巻11号、805-806頁、2003年11月（単著） ⑦「医師への戒めの言葉」W Waves 11巻1号、16-18頁、2005年5月（単著） ⑧「外科侵襲と生体反応－SIRS,CARSとMOSDをめぐって」新潟県医師会報 No.671,1-4頁、2006年2月（単著）
所属学会	日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会 日本外科代謝栄養学会、日本静脈経腸栄養学会 日本小児外科学会、日本癌治療学会、日本癌学会、日本医師会
その他	第17期、第18期日本学術会議会員（1997年7月～2003年7月）

情報 文化学科

臼井 陽一郎

區 建英

小澤 治子

越智 敏夫

小山田 紀子

澤口 晋一

申 銀珠

高橋 正樹

グレゴリー ハドリー

アレクサンドル プラーソル

安藤 潤

熊谷 卓

小林 元裕

佐々木 寛

長坂 格

矢口 裕子

吉澤 文寿

池田 嘉郎

キャロリン カルテンバック

ハワード ブラウン





氏 名
性 別
生 年 月 日
職 名
連 絡 方 法
学 歴

学 位
職 歴
研 究 分 野
主 要 業 績

ウスイ ヨウイチロウ

白井 陽一郎 USUI Yoichiro

男

1965年8月10日生

教授(2005年4月)

E-mail : usui@nuis.ac.jp

1989年 早稲田大学社会科学部卒業

1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了

1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学

修士(早稲田大学経済学研究科)、MA by research(リーズ大学法学部)

1994~1996年 早稲田大学社会科学部助手

欧州統合論、EUの統治と法秩序、EUの環境政策と環境法。

著書

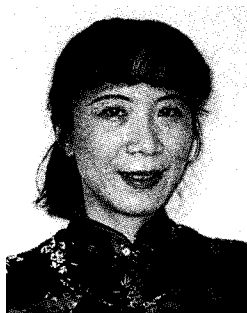
- ①(共著)『国際機構』(庄司克宏編著)岩波書店、2006年。
- ②(共著)『EU研究の新地平：前例なき政体への接近』(中村民雄編著)ミネルヴァ書房、2005年。
- ③(共著)『アクセス地域研究Ⅱ：先進デモクラシーの再構築』(小川有美・岩崎正洋編著)日本経済評論社、2004年。
- ④(共著)『甦るコミュニティ：哲学と社会科学の対話』(田村正勝編著)文真堂、2003年。
- ⑤(共著)『世界システムのゆらぎの構造：EU・東アジア・世界経済』(田村正勝編著)早稲田大学出版部、1998年。

論文

- ① 'An Evolving Path of Regionalism : The Construction of an Environmental Acquis in the EEC and ASEAN'. In T.Nakamura ed., *The Dynamics of East Asia Regionalism Comparative Persective*. ISS Research Series No.24, 2007, pp.31-66.
- ② 「気候変動問題の構成と国際共同行動の展開：気候変動レジーム・国連環境計画・欧州連合(1)(2)(3)」『慶應法学』第5・6・7号、2006/07年。
- ③ 'The Roles of Soft Law in EU Environmental Governance: An Interface between Law and Politics'. 『日本EU学会年報』第26号、2006年。
- ④ 'Soft Governance in the EU Climate Change Strategy'. 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第9号、2006年。
- ⑤ 'The Principle of Environmental Integration in the European Union: From a Discursive Constructivism'. 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号、2005年。
- ⑥ 「EC環境立法の展開と共通意味世界の構成：社会構成主義の観点から」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第6号、2003年。
- ⑦ 'Evolving Environmental Norms in the European Union'. *European Law Journal*. Vol.9:1, 2003.
- ⑧ 「EUの特異性と規範の進化」『社会科学研究』(東京大学社会科学研究所)第54巻・第1号、2003年。
- ⑨ 「EC 環境レジームの形成と欧州司法裁判所の役割：社会構成主義(Social Constructivism)の観点から」『経済社会学会年報』第24号、2002年。
- ⑩ 'Norm Evolution in EC Environmental Law'. *Constitutionalism Web Papers (ConWEB)*. No.1/2002.
- ⑪ 「EU 研究における統治(Governance)論の射程」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第5号、2002年。
- ⑫ 'Governance, Legal Order, and Social Integration: Reviewing new governance approaches in EU studies'. 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第3号、2000年。

所 属 学 会

UACES (英国EU学会)、EUSA (米国EU学会)、日本EU学会、経済社会学会



- 氏 名 オウ ケンエイ 區 建英 OU Jianying
- 性 別 女
- 生 年 月 日 1955年10月27日生
- 職 名 教授（1998年4月）・情報センター長
- 連 絡 方 法 E-mail : ou@nuis.ac.jp
- 学 歴 1982年 広州外国語大学 日本語文学科卒業
1984年 北京師範大学歴史学系修士課程卒業（文学修士）
1993年 東京大学大学院博士課程修了
- 学 位 博士（文学、東京大学、1993年3月）
- 職 歴 1984～1993年（中国）暨南大学歴史学部専任講師
1988～1995年 学習院大学文学部兼任講師
1993～1994年 東京大学教養学部客員研究員
1994～1997年 新潟国際情報大学助教授
- 研 究 分 野 中国の民主化と多民族社会。中国は発展途上国として、また多民族国家として様々な苦悩を抱えている。私は主として、近代中国の民主化と民族のあり方に関する思想や論理の変化を解明し、これによって、現代中国社会のあり方を規定する諸要因を把握したい。その手がかりとして研究している中国の思想家は厳復である。また、比較研究という視点から、福沢諭吉の思想をはじめ日本近代思想を研究している。同時に、グローバリゼーションにおける中国の思想や論理の変遷にも注目していきたい。
- 主 要 業 績 著書
①『日本的市民社会』（監修）（新世紀出版社 1992年）
②『福沢諭吉と日本近代化』原著者・丸山真男（編集・翻訳）（学林出版社 1992年）
③『近代日本と東アジア』（共著）（筑摩書房 1995年）
④『日本立憲政治の形成と変質』（共著）（吉川弘文館 2005年）
- 論文
①「中国における福沢諭吉理解」（日本歴史学会編 日本歴史 1992年2月号）
②「福沢諭吉研究と丸山真男」（みすず書房 みすず 1992年10月号）
③「励みと悲しみ——近代中国と日本」（岩波書店 世界 1995年3月号）
④「丸山真男における国民国家と永久革命」（歴史学研究会編 歴史学研究 1998年3月号）
⑤「厳復の政治学における国家理論」（慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第17巻）
⑥「厳復の老荘注釈における意味」（慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第18巻）
⑦「異文化の衝突と融合——中国近代文化に関する厳復の模索」（新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第6号2003年3月）
⑧「厳復の初期における伝統批判と改革思想」（『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第7号2004年）
⑨「厳復とモンテスキュー：『仁政』の転回と政治的自由」（専修大学歴史学センター年報『フランス革命と日本・アジアの近代化』第4号2007年）
⑩「清末の『種族』論とナショナル・アイデンティティ」（『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号2007年）
- 所 属 学 会 中国社会文化学会・アジア政経学会・政治思想学会
中国・中国日本史学会（理事）
アメリカ・American Political Science Association
- そ の 他 1986年に東京大学大学院で近代日本思想を研究するために来日。以後同大学院で研究するかたわら、学習院大学で兼任講師をつとめ、また慶應義塾福沢研究センター、東京大学教養学部の客員研究員を兼務した。



氏 名 小澤 治子 OZAWA Haruko

性 別 女

生 年 月 日 1956年4月27日生

職 名 教授 (1999年4月)

連 絡 方 法 E-mail: haruko@nuis.ac.jp

学 歴 1979年 上智大学外国語学部ロシア語学科卒業

1986年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学

学 位 博士 (法学) (慶應義塾大学、2000年3月)

職 歴 日本国際問題研究所ロシア研究センター研究員

1995年 新潟国際情報大学助教授

研 究 分 野 主な研究分野は、20世紀の日ソ・日ロ関係の歴史を東アジアの国際関係の中で考察することである。特に1917年のロシア革命、また第2次世界大戦、さらにはペレストロイカからソ連解体にいたる時期に関心をもって研究を進めてきた。

主 要 業 績 著書

- ①『ロシアの対外政策とアジア太平洋 ― 脱イデオロギーの検証』(単著) (有信堂、2000年)
- ②『日本の岐路と松岡外交 ― 1940～41年 ―』(共著) (南窓社、1993年)
- ③『アジアの中の日本と中国 ― 友好と摩擦の現代史』(共著) (山川出版社、1995年)
- ④『東アジアのロシア』(共著) (慶應義塾大学出版会、2004年)

論文

- ①「ソビエト政権初期の対日政策 (1917.11～1921.8) ― 対米政策との関連で」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第63巻第2号、1990年2月)
- ②「ゴルバチョフ政権と日米関係 ― 安保条約容認をめぐる対日政策形成機構の認識を中心に」(ソ連研究第11号、1990年10月)
- ③「ソ連における日本軍国主義観 ― プレジネフからゴルバチョフへ ―」(外交時報第1276号、1991年3月)
- ④「真珠湾とソ連外交 ― 1941年日本をめぐる米ソ関係」(軍事史学第27巻第2・3合併号、1991年12月)
- ⑤「ワシントン会議とソビエト外交 ― 極東共和国の役割を中心に」(政治経済史学第307号、1992年1月)
- ⑥「アメリカ国務省の対ソ認識 (1917.11～1918.7) ― 駐ロシア大使フランスの役割を中心に」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第66巻第2号、1993年2月)
- ⑦「モスクワと極東、アジア・太平洋 ― ロシアの対外政策路線の一考察」(外交時報第1302号、1993年10月)
- ⑧「ペレストロイカとソ連のアジア・太平洋観」(ロシア研究第18号、1994年4月)
- ⑨「冷戦構造崩壊後のロシアの対外政策 ― 中東欧の位置づけを主軸に」(慶應義塾大学法学研究会法学研究 第67巻第12号、1994年12月)
- ⑩「NATO拡大問題とCIS ― ロシアの対外政策における位置づけ ―」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要第1号、1998年3月)
- ⑪「ロシアの対外政策における中国 ― 戦略的パートナーシップの限界 ―」(新防衛論集第25巻第4号、1998年3月)
- ⑫「APEC加盟問題とロシア ― アジア太平洋国際経済協力体制におけるロシア極東」(海外事情 第46巻第9号1998年9月)
- ⑬「NATOの東方拡大とロシア ― ロシアにおける国家安全保障観との関連で ―」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要第4号、2001年3月)
- ⑭「ロシアの外交戦略と米国のユニラテラリズム ― イラク戦争をめぐる米ロ関係を中心に ―」(ロシア・東欧研究第33号、2005年9月)

所 属 学 会

ロシア東欧学会・日本国際政治学会・アジア政経学会・軍事史学会・ロシア史研究会



氏 名	オチ トシオ 越智 敏夫 OCHI Toshio
性 別	男
生 年 月 日	1961年7月7日生
職 名	教授(2006年4月)
連 絡 方 法	E-mail: tochi@nuis.ac.jp
学 歴	1986年 立教大学法学部卒業 1992年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学 法学修士(慶應義塾大学政治学専攻、1988年3月)
学 位	
職 歴	1992～1994年 立教大学法学部助手 1994～1996年 シカゴ大学客員研究員 1996年 新潟国際情報大学専任講師 2002～2003年 ニューヨーク大学招聘研究員
研 究 分 野	現代政治理論、アメリカ政治論。 現代政治理論の発展と市民社会・政治文化の関連の研究。主にアメリカ合衆国を中心とした先進資本主義諸国における政治的理念の展開を現実政治との関係のなかで考察する。国民国家を中心概念とした一元的な政治統合の態様を批判的に検討し、その代替物の可能性を政治理論的課題として考えたい。またその議論の前提としておきたいのは、目の前にある政治制度や政治体制は所与のものとして存在しているのではなく、それらはあくまでも変革可能な「状況」論理のもとに置かれているということである。
主 要 業 績	<p>著書</p> <p>①『現場としての政治学』(共著、日本経済評論社、2007年) ②『現代市民政治論』(共著、世織書房、2003年) ③『講座政治学 第一巻・政治理論』(共著、三嶺書房、1999年) ④『グローバル・デモクラシーの政治空間』(共著、東信堂、1997年)</p> <p>論文</p> <p>①「アメリカ国家思想の文化的側面：その政府不信と体制信仰について」(政治思想研究、第7号、2007年) ②「市民文化論の統合的機能：アメリカ社会の『自己正当化』について」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第9号、2006年) ③“Erasing Memories, Preserving Memories: Political Meanings of Pollution and Antipollution Movements in Cold War Japan,” <i>Journal of Pacific Asia</i>, vol.12, 2005. ④「フィクションに見る市民の司法参加」(法学セミナー増刊Causa第3号、2002年) ⑤「司法制度改革の政治的意義」(月刊司法改革第20号、2001年) ⑥「アメリカ合衆国におけるマイノリティ文化の人為的形成」(地域文化研究第4号、2000年)</p>
所 属 学 会	日本政治学会 日本アメリカ学会 American Political Science Association 政治思想学会 地域文化学会



氏 名
性 別
生 年 月 日
職 名
連 絡 方 法
学 歴
学 位
職 歴

オヤマダ ノリコ
小山田 紀子 OYAMADA Noriko

女

1953年11月27日生

教授（2005年4月）

E-mail: oyamada@nuis.ac.jp

1978年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業

1984年 津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程単位取得満期退学

国際学修士（津田塾大学、1981年）

1987～1989年 日本学術振興会特別研究員

1987～1991年 神奈川大学外国語学部・法学部非常勤講師

1992～2005年 吉備国際大学社会学部専任講師・助教授（1995年～）

研究分野

マグレブ近現代史。北西アフリカのマグレブ（狭義には、チュニジア・アルジェリア・モロッコの旧フランス植民地をさす西方アラブ圏諸国）の地域研究を行ってきた。とりわけアルジェリアのフランス植民地化の歴史と脱植民地化の問題を研究対象としている。

主要業績

著書

①『アルジェリアの農業』（共著）（1998年、国際農林業協力協会）

②『イスラーム研究ハンドブック』（共著）（1995年、栄光教育文化研究所）

③『イスラーム事典』（共著）（2002年、岩波書店）

論文

①「フランス植民地化前アルジェリアの土地制度」『国際関係学研究』第8号、津田塾大学、1982年3月

②「独立後のチュニジアにおける農業政策の展開」『国際関係研究所報』第17号、津田塾大学、1985年3月

③「独立戦争前夜のアルジェリアにおける農業構造—1950・51年農業セサス分析に基づく試論—」『国際関係学研究』No.12別冊、1986年3月

④「植民地アルジェリアにおける行政町村の形成」『歴史学研究』第633号、青木書店、1992年6月

⑤「19世紀初頭の地中海と“アルジェリア危機”—トルコ政権崩壊の過程に関する一考察—」『歴史学研究』第692号、1996年12月

⑥「植民地アルジェリアにおける国有地の形成（1830—1851年）」『吉備国際大学研究紀要』第8号、1998年3月

⑦「アルジェリア・ミチジャ平野における原住民隔離政策と土地所有の再編成（1852～1864年）」『吉備国際大学研究紀要』第9号、1999年3月

⑧「アルジェリアにおける1863年元老院決議（土地法）の適用と農村社会の再編—植民地行政町村の形成をめぐる一—」『国際社会学研究所紀要』第8号、2001年3月

⑨「幕末日本のフランス公使レオン・ロッシュの生涯（覚書）—フランス・マグレブ・日本をつなぐ人物像—」『人間と社会—知識人の時代批判』吉備国際大学社会学部共同研究成果報告書、2003年3月

⑩「『アルジェリア社会主義農業の構造改革』再考—1980年代のティアレット県トゥニエ・テル・ハアド郡における生産組織の再編成をめぐる一—」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第14号、2004年3月

⑪「アルジェリアにおける1873年ワルニ工法と私的土地所有権の成立」『国際関係学研究』第31号、津田塾大学、2005年3月

⑫「アルジェリア独立戦争と農村社会の変動—住民再編成の政策をめぐる一—」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第15号、2005年3月

⑬「アルジェリア『内戦』の傷跡—2005年春の旅から—」津田塾大学『国際関係研究所報』第41号、2006年12月

⑭「Mediterranean Powers and the 'Algerian Crisis' at the Beginning of the 19th Century」『上智アジア学』第24号、2006年12月

所属学会

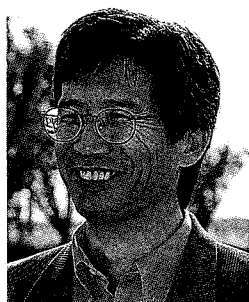
日本中東学会、日本アフリカ学会、歴史学研究会、日本社会学会



- 氏 名 サワグチ シンイチ 澤口 晋一 SAWAGUCHI Shin-ichi
 性 別 男
 生 年 月 日 1959年2月10日生
 職 名 教授 (2005年4月)
 連 絡 方 法 E-mail : sawashin@nuis.ac.jp
 学 歴 1983年 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業
 1992年 明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得
 学 位 博士 (地理学) 明治大学、2001年3月
 職 歴 1990～1992年 日本学術振興会特別研究員
 1992～1996年 明治大学文学部・国士舘大学文学部非常勤講師
 1994～1996年 東海大学文学部非常勤講師
 1996年 新潟国際情報大学専任講師
- 研 究 分 野 ①高緯度極地と中緯度高山山地における地形プロセスの比較研究。
 ②氷河・周氷河地形に基づく氷期の古環境復元。
- 主 要 業 績 著書
 ①『山に学ぶ 一歩いて観て考える山の自然』(編著) 古今書院 (2005年)
 ②『日本の地形3 東北』(分担執筆) 東京大学出版会 (2005年)
 ③『改訂砂防用語集』(分担執筆) 砂防学会 (2004年)
 ④『百名山の自然学』(分担執筆) 古今書院 (2002年)
 ⑤『山名・用語辞典』(分担執筆) 山と溪谷社 (1998年)
 ⑥『第四紀露頭集—日本のテフラ』(分担執筆) (日本第四紀学会 1996年)
 ⑦『世界の山々』(分担執筆) (古今書院 1995年)
 ⑧『山の自然学入門』(分担執筆) (古今書院 1992年)
- 論文
 ①「北上川上流域における周氷河インボリューション形成の年代」(季刊地理学58-4.2007年)
 ②「南アルプス大聖寺平の大型ソリフラクションロープ」増澤弘武編『南アルプスの自然』所収.2007年、静岡県
 ③「Present-day Periglacial Environments in Central Spitsbergen, Svalbard」(Geographical Review of Japan、77-5.2004年)
 ④「北極圏カナダ、エルズミア島 オーブロイヤール湾地域における第四紀後期の氷河作用」(駿台史学.123号 2004年)
 ⑤「Holocene Glacial Advances in Koryto Glacier, Kamchatka Russia」(Cryospheric Studies in Kamchatka II 1999年)
 ⑥「スピッツベルゲン、ニューオールスンにおける地温観測」(地学雑誌107-5 1998年)
 ⑦「北上山地における周氷河性斜面物質移動と凍上に関する野外実験」(地形19-3 1998年)
- 所 属 学 会 日本地理学会
 日本第四紀学会
 東北地理学会
 東京地学協会
- そ の 他 ・ 1990～1992年および1994年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査
 ・ 1997年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カムチャッカ半島調査
 ・ 2001,2002年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カナダ北極圏エルズミア島、アクセルハイベルグ島調査。
 ・ 2004年、アラスカ大学フェアバンクス校客員研究員



氏 名 シン ウンジュ 申 銀珠 SHIN Eunju
 性 別 女
 生 年 月 日 1958年3月4日生
 職 名 教授 (2006年4月)
 連 絡 方 法 E-mail : shin@nuis.ac.jp
 学 歴 韓国外国語大学及び大学院 (修士過程) 修了後、
お茶の水女子大学大学院人文科学研究科及び人間文化研究科修了
 学 位 博士 (人文科学、お茶の水女子大学、1995年3月)
 職 歴 日本学術振興会外国人特別研究員、
名古屋大学言語文化部非常勤講師 (1998.4～2001.3)
 研 究 分 野 韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相につ
いて。特に、日本統治期の朝鮮を描いた韓国と日本の文学作品及び「在日文学」
について研究を進めている。
 主 要 業 績 論文
 ①「韓国近代文学の中の日本文学—『創造』『廃墟』の翻訳詩を中心として—」
(単著)『人間文化研究年報』第16号 (お茶の水女子大学、1993.2)
 ②「朱耀翰と川路柳虹」(単著)『淵叢』第2号 (淵叢の会、1993.3)
 ③「『朝鮮』から見た中野重治—植民地知識人の自画像を求めて—」(単著)
『国際日本文学研究集会会議録』第17回 (国文学研究資料館、1994.10)
 ④「韓国における高橋新吉」(単著)
『国文』第82号 (お茶の水女子大学国語国文学会、1995.1)
 ⑤「叙述の真偽からみた『地獄変』の世界」(単著) (韓国語)
『日語日文学研究』第28輯 (韓国日語日文学会、1996.6)
 ⑥「中野重治と韓国プロレタリア文学運動—林和、李北満との関係を中心として—」
(単著)『日本研究』第12号 (韓国外国語大学校日本研究所、1998.2) (韓国語)
 ⑦「日本統治期の韓国人作家と日本語」(単著)
『日本近代文学』第63集 (日本近代文学会、2000.10)
 ⑧「『雨の降る品川駅』・中野重治・『五勺の酒』—民族・民族問題をめぐって—」
(単著)『淵叢』第10号 (淵叢の会、2001.8)
 ⑨「中野重治、詩的精神の憤怒の行方—君らの叛逆する心は別れの一瞬に凍
る—をめぐって」(単著)『国文学』第47巻1号 (學燈社、2002.1)
 ⑩「ソウルの異邦人、その周辺—李良枝『由熙』をめぐって—」(単著)『新潟
国際情報大学情報文化学部紀要』第7号 (2004.3)
 ⑪「中野重治と日本の天皇制」(単著)『日本近代文学—研究と批評4』(韓国日
本近代文学会、2005.10) (韓国語)
 ⑫「朴景利『土地』に描かれた日本・日本人像」(単著)『新潟国際情報大学情
報文化学部紀要』第9号 (2006.6)
 ⑬「予感する〈女〉たち—韓国語訳『ジョゼと虎と魚たち』をめぐって—」
(単著)『国文学解釈と鑑賞 別冊 田辺聖子』(至文堂、2006.7)
 所 属 学 会 日本近代文学会
朝鮮学会
お茶の水女子大学国語国文学会
韓国日本近代文学会



氏 名
性 別
生 年 月 日
職 名
連 絡 方 法
学 歴
学 位
職 歴

タカハシ マサキ

高橋 正樹 TAKAHASHI Masaki
男

1956年3月1日生

教授（2005年4月）・情報文化学科長

E-mail : tmasaki@nuis.ac.jp

1981年 中央大学法学部政治学科卒業

1990年 中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程満期退学

法学修士（中央大学、1985年3月）

タマサート大学（タイ）客員研究員

中央大学法学部兼任講師

白鷗大学法学部非常勤講師

研 究 分 野

政治学の観点からのタイ国家研究と、日本とアジアの国際関係を研究しています。とくに現在の研究のテーマはグローバリゼーション時代のタイ国家の変容についてです。タイは歴史的にバンコクを中心に世界経済と密接な関係をもつことで国家形成を行って来ました。その結果、バンコクと周辺地域とは異なる政治経済構造を形成してきました。その二重構造は戦後の近代化時代にも是正されることなく、新たな二重構造を構築しました。それはタイ国家内のバンコクと地方との無関係的な二重構造から、国家統合の促進によって両者が不平等に関係付けられた二重構造といえます。

さらに、90年代以降のグローバリゼーションによって、バンコクの資本や中間層、国家官僚は政府の政策をグローバリゼーションに適合したものに変えていきました。その結果、タイ国家の機能はグローバル資本とそれと利害を一致させるタイの資本の活動を円滑にする機能を一層促進させていき、資本、中間層、国家官僚のグローバル勢力とそれ以外の勢力との対立を激化させています。その過程でグローバル勢力は国外の諸勢力にその権力を依存する構造を強化して、タイの国家は国民に権力基盤をもたず国民に責任をもたない傾向を強めていくのではないかと考えられます。

主 要 業 績

論文

- ①「19世紀前半におけるバンコク王朝の政治秩序——交易港と権威交易体制——」『法学新報』第96巻1・2号（中央大学法学会）、1989年11月
- ②「カンボジア紛争とタイ国共産党の崩壊——地域システムとタイ国家システム——」『中央大学社会科学研究所共同研究報告書』（中央大学社会科学研究所）、1997年7月
- ③「アロンの国際関係論の認識論的検討——その自然状態を中心に——」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第1号、1998年3月
- ④「諸国家システムにおける国民国家」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第3号、2000年3月
- ⑤「西欧におけるグローバリゼーションと国民国家——国家の脱国民国家化への視座を求めて——」『法学新報』110巻5・6号（中央大学法学会）、2003年8月
- ⑥「グローバリゼーションとタイ国家論——分裂する社会、対立する言説——」滝田賢治編著『グローバル化とアジアの現実』中央大学出版部、2005年3月
- ⑦「戦争、諸国家システム、国家——歴史社会学の可能性と問題点——」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号、2005年3月
- ⑧「グローバリゼーションとタイ政治の混迷——タクシン政権の誕生と崩壊をめぐって——」東洋大学アジア地域研究センター編『アジアの経済発展と伝統文化の変容』2007年3月

所 属 学 会

日本国際政治学会・東南アジア学会・日本政治学会・日本平和学会・環日本海学会・地域文化学会・日本タイ学会・Association for Asian Studies (USA)

そ の 他

タマサート大学（タイ）客員研究員（1986～88年、1992～1994年、2001～2002年）
アメリカでの調査・研究（1995～1996年）



氏 名	グレゴリー ハドリー Gregory Hadley
性 別	男
生 年 月 日	1965年3月12日生
職 名	教授 (2005年4月)
連 絡 方 法	E-mail : hadley@nuis.ac.jp
学 歴	1987年 Northwest Missouri State University, USA コミュニケーション専攻・スペイン語副専攻卒業 1992年 Midwestern Baptist Theological Seminary, USA 神学専攻修士課程修了 1997年 University of Birmingham, UK 応用言語学専攻修士課程修了
学 位	Master of Divinity, Master of Arts (TEFL/TESL)
職 歴	1997-2000年 長岡工業高等専門学校外国人教師
研 究 分 野	①Personal Construct Repertory Gridsによる社会的、教育的価値観の異文化間 リサーチ。 ②ユダヤ・キリスト教の信仰と倫理が西洋文化の形成に及ぼした影響。 ③日本の大学における効果的な英語教育カリキュラムの開発。
主 要 業 績	<p>論文</p> <p>①『Classroom Teachers and Classroom Research』(共著)(全国語学教育学会、1997年)</p> <p>②「英語に対する学生の不安感—その積極的学習意欲への転換」(『看護教育』医学書院、1994年)</p> <p>③「Lexis and Culture: Bound and Determined?」(『Journal of Psycholinguistic Research』1997年)</p> <p>④「Using Corpora with Japanese Beginners」(『IATEFL Newsletter』1998年)</p> <p>⑤「Concordancing in Japanese TEFL: Unlocking the Power of Data-Driven Learning」(『The Japanese Learner』Oxford University, 1998年)</p> <p>⑥「An Investigation of Techniques that Encourage and Measure Oral Communications in Japanese EFL Classrooms」(『長岡工業高等専門学校研究紀要』1998年)</p> <p>⑦「Returning Full Circle: A Survey of EFL Syllabus Designs for the New Millennium」(『RELC Journal』1998年)</p> <p>⑧「Innovative Curricula in Tertiary ELT: A Japanese Case Study」(『ELT Journal』1999年)</p> <p>⑨「Constructions across a Cultural Gap」(共著)(『Action Research』, TESOL 2001年)</p> <p>⑩「A Forecast for the Early 21st Century」(全国語学教育学会, 2001年)</p> <p>⑪「Sensing the Winds of Change: An Introduction to Data-Driven Learning」(『RELC Journal』2002年)</p> <p>⑫「Money, Politics and Religion: A Survey of Anglo-American Influence in TESOL.」3L Journal of Language Teaching, Linguistics & Literature 9, 11-33 (2005年)</p> <p>⑬「International English and the Anglo-American Hegemony: Quandary in the Asian Pacific Region.」Explorations in Teacher Education 12 (2), 44-50. (2004年)</p> <p>⑭「Relating the Curriculum to Regional Concerns: A Japanese Case Study.」GEMA journal 3 (2), 78-99. (2003年)</p>
所 属 学 会	全国語学教育学会 (JALT) International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL) 大学英語教育学会 (JACET)



アレクサンドル プラソル
Alexander Prasol

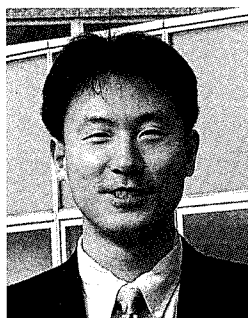
氏 名
性 別
生 年 月 日
職 名
連 絡 方 法
学 歴
学 位
職 歴

男
1952年10月26日生
教授（2000年4月）
E-mail : prasol@nuis.ac.jp
1975年 極東国立大学（ロシア）日本語文学科卒業
1978年 モスクワ大学日本語学系修士課程終了
文学修士（Master of Science Degree モスクワ大学、1979年）
歴史博士（Doctor of Science Degree 極東大学、2005年）
1978～1980年 極東大学東洋学部助手
1980～1985年 同学部専任講師
1985～1991年 同学部助教授
1991～1994年 新潟大学教養部助教授
1994～1999年 新潟大学人文学部助教授

研 究 分 野
大学卒業後、日本語と日本文化の研究をすすめてきたが、来日すると、ロシア語・ロシア文化も研究することになった。現在は、両方とも行っている。ロシア史概説とロシア文化論を担当するので、ロシアの過去の文化と社会、ロシア人発想の起源、ロシア人論の説に興味を持っている。現代のロシア人として、激しい移り変わりを体験しつつある新しいロシア連邦からのニュースを分析している。ロシア人の目でみた日本、日本人の目で見たロシア、両国間の交流と諸問題などについて考えている。

主 要 業 績
著書
①『日本語会話』（共著）極東大学出版部 1984年、172頁
②『日本語会話における終助詞』（単著）極東大学出版部 1989年、1999年出版、170頁
③『日本教育の成立』（8～19世紀）ダリナウカ出版、2001（単著）、391頁
④「明治時代の教育」（1868-1912）（単著）ダリナウカ出版、2002、358頁
⑤「自治体外交」市岡政夫著（ロシア語単訳）ダリナウカ出版、2004、300頁
論文
①「現代日本語における接続詞と接続助詞」（修士論文概要）単著1979年（モスクワ）
②「日本語における因果関係を表す接続方法について」（単著）1992年（新潟大学）
③「日本語条件形式の用法をめぐって」（単著）1995年（新潟大学）
④「現代ロシア語における俗語と隠語について」（単著）1996年（新潟大学）
⑤「徳川時代の学校教育」（単著）1998年（ウラジオストク）
⑥「古代日本の教育の成立と最初の教育機関」（単著）1998年（ウラジオストク）
⑦「Some Features Of the Sentence-Final Particles in Japanese」（単著）1999年（新潟大学）
⑧「鎌倉・室町時代の教育」（単著）1999年（ウラジオストク）
⑨「徳川時代の文化と家庭教育」（単著）2001年（ウラジオストク）
⑩「明治初期教育制度の変遷」（1868～1871年）新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号、2002年
⑪「現代日本教育について」（単著）Yaponia: Put' Kisti i Mecha, 2002, N3（モスクワ）
⑫「日本教育の起源と展開」（博士論文の概要 ウラジオストク）2005年
⑬「ロシアと日本：民俗文化のアーキタイプを比較して」（単著）新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号、2007年

所 属 学 会
日本教育史研究会
ヨーロッパ日本研究学会（European Association for Japanese Studies）



氏 名 アンドウ ジュン 安藤 潤 ANDO Jun
 性 別 男
 生 年 月 日 1968年3月25日生
 職 名 准教授 (2003年4月)
 連 絡 方 法 E-mail : ando@nuis.ac.jp
 学 歴 1992年3月 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業
 1994年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了
 2000年3月 早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得修了
 学 位 学士 (経済学) (早稲田大学、1992年3月)
 修士 (経済学) (早稲田大学、1994年3月)
 職 歴 国土館大学政経学部・法学部非常勤講師 (2002年4月～)
 中央大学経済研究所特別研究員 (2002年10月～)
 桜美林大学経済学部非常勤講師 (2004年4月～)
 研 究 分 野 ①研究テーマ：防衛支出がマクロ経済に与える影響に関する実証分析
 キーワード：防衛支出、externality effect、政府支出の代替性・補完性
 研究形態：個人研究
 ②研究テーマ：行動経済学と経済政策
 キーワード：行動経済学、アイデンティティと経済行動
 研究形態：共同研究

主要業績

著書

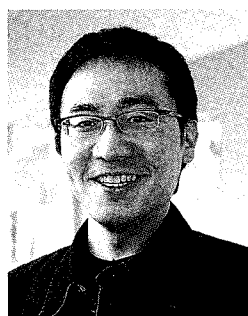
- ①『Current Issues in Economic Policy』[Chapter 6 A Study on the 'Peace Dividend' under the Clinton's Administration] (共著、2000年12月発行) 早稲田大学現代政治経済研究所、121-131頁、共著者：◎諏訪貞夫、松本保美、松崎慈恵、馬場正弘、鎌田亨、永富隆司
- ②『諏訪貞夫教授古希記念論文集 日本経済の新たな進路－実証分析による解明－』[「日本の経済成長と日米安全保障条約に関する－考察－米国軍事支出からのスピル・インに関するexternality effectの実証分析－」] (共著、2002年2月発行) 文眞堂、215-228頁、共著者：諏訪貞夫、松本保美、ほか
- ③『IT革命時代の経済と政府』第3部「グローバリズムとIT革命時代のマクロ経済政策」(共著、2002年9月発行) 文眞堂、163-220頁、共著者：長谷川啓之、谷口洋志

論文

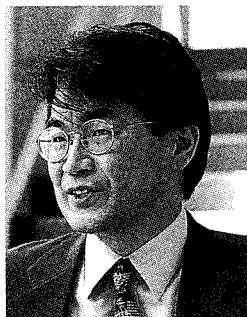
- ①「日米におけるIT資本の労働生産性上昇効果に関する一考察－1990年代後半におけるIT資本の貢献－」、(単著、2003年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第6号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、27-43頁)
- ②「米国における防衛部門経済とマクロ経済成長－Mueller and Atesogluモデルの実証分析とその評価－」、(単著、2004年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第7号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、57-76頁)
- ③「米国における政府支出と民間消費の代替性に関する防衛経済学的考察－年次及び四半期データを用いたEvans and Karras モデルの実証分析－」(単著、2005年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、51-75頁)
- ④「日本における民間消費の過剰反応と財政政策の非ケインズ効果－政府債務削減が家計の消費行動に与える影響を中心に－」(単著、2006年6月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第9号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、59-70頁)

所属学会

日本経済政策学会・情報通信学会・日仏経済学会



氏名	クマガイ タク 熊谷 卓 KUMAGAI Taku
性別	男
生年月日	1969年1月25日生
職名	准教授(2004年4月)
連絡方法	E-mail: takuk@nuis.ac.jp
学歴	1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業 2000年8月 広島大学大学院社会科学研究科後期博士課程法律学専攻単位取得退学
学位	法学修士(広島大学、1994年3月)
職歴	1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師 1997年～1999年 広島大学法学部助手 1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師 2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師 2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師
研究分野	国際法、国際刑事法。 テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益(主権)を調整しつつ、国際社会の共通利益(共通の保護法益)を擁護しているのかということを現在の研究のテーマとしている。
主要業績	<p>著書</p> <p>①『ファンダメンタル法学講座 国際法』(共著)(不磨書房、2002年)</p> <p>論文</p> <p>①「国家管轄権の域外適用ーアメリカ合衆国反トラスト法を中心にー」(単著) 1995年3月 広島法学(広島大学法学会)第18巻第4号 181頁ー208頁。</p> <p>②「国際テロリズムの法的規制」(単著) 1996年3月 広島法学(広島大学法学会)第19巻第4号 257頁ー300頁。</p> <p>③「欧州連合(EU)と国際テロリズム」(単著) 1997年2月 広島法学(広島大学法学会)第20巻第3号 203頁ー235頁。</p> <p>④「犯罪人引渡と国際テロリズムーフランス共和国の立法および判例から」(単著) 1998年2月 広島法学(広島大学法学会)第21巻第3号 95頁ー133頁。</p> <p>⑤「フランス共和国におけるテロリズムに対する国内法的規制(一)(二・完)」(単著) 1999年2月 1999年3月 広島法学(広島大学法学会) 第22巻第3号 37頁ー60頁 第22巻第4号 117頁ー138頁。</p> <p>⑥「国家テロリズムと国際法ーロッカビー事件を手がかりとして」(単著) 2002年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号 115頁ー154頁。</p> <p>⑦「誰がテロリストを裁くのか?ー合衆国軍事委員会と国際人権法ー」(単著) 2003年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第6号 87頁ー101頁。</p> <p>⑧「判例紹介 テロリストと人身保護請求の可否ーグアンタナモの被拘束者に関する5つの裁判例から」(単著) 2004年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第7号 119頁ー159頁。</p> <p>⑨「判例紹介 対テロ戦争と人権ーグアンタナモの被拘束者をめぐるアメリカ合衆国連邦最高裁の判断」(単著) 2005年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号 119頁ー133頁。</p> <p>⑩「対テロ戦争と国際人権法ーグアンタナモの被拘束者に対する市民的および政治的権利に関する国際規約(自由権規約)の適用可能性ー」(単著) 2005年12月 広島法学第29巻第2号81頁ー116頁。</p>
所属学会	世界法学会 国際法学会 米国国際法学会



氏 名
性 別
生 年 月 日
職 名
連 絡 方 法
学 歴

コバヤシ モトヒロ

小林 元裕 KOBAYASHI Motohiro

男

1963年生

准教授（2001年9月）

E-mail : Kobayasi@nuis.ac.jp

1986年 横浜市立大学文理学部文科卒業

1989年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了

1990～1992年 南開大学留学

1996年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程後期課程退学

学 位
職 歴

文学修士（立教大学、1989年3月）

1996～1998年 立教大学非常勤講師

1997～1998年 宇都宮大学・日本体育大学非常勤講師

1998～2001年 在瀋陽日本国総領事館専門調査員

2002～2003年 信州大学非常勤講師

2003～2004年 放送大学(新潟学習センター)・新潟大学非常勤講師

2006～2007年 東北学院大学非常勤講師

研 究 分 野
主 要 業 績

日中関係論・日中近現代史

著書

①『東京裁判資料・田中隆吉尋問調書』（共編、大月書店、1994年）

②『天津史－再生する都市のトポロジー』（共著、東方書店、1999年）

論文

①「1920年代天津における日本人居留民」（『史苑』第55巻第2号、1995年）

②「天津事件再考－天津総領事館・支那駐屯軍・日本人居留民－」（『日本植民地研究』第8号、1996年）

③「阿片をめぐる日本と汪兆銘政権の『相剋』」（『年報日本現代史』第3号、現代史料出版、1997年）

④「Drug Operations by Resident Japanese in Tianjin」（『Opium Regimes－China, Britain, and Japan, 1839－1952』, Berkeley: University of California Press, 2000）

⑤「移行期における民営経済－中国・瀋陽にみる歴史的背景と現在」（共著、『東亜』2001年2月号）

⑥「国有企業主体地域における私営企業の発展と政治経済体制－遼寧省の事例」（『中国の私営企業等の実態とその国内政治への影響評価』霞山会、2002年）

⑦「歴史的“改革”與日本外交－以昭和初期為例」（『全球化與東亜政治、行政改革』天津人民出版社、2003年）

⑧「遼寧省の市場経済発展と企業改革・中小企業－瀋陽の事例から－」（共著、『東北アジアビジネス提携の展望』文眞堂、2004年）

⑨「蒙疆の日本人居留民」（『日本の蒙疆占領1937－1945』研文出版、2007年）

その他

①「書評－石田勇治編集・翻訳『資料ドイツ外交官の見た南京事件』」（『近きに在りて』第42号、2002年）

②「書評－山田豪一『満洲国の阿片専売－わが「満蒙特殊権益」の研究』」（『日本植民地研究』第17号、2005年）

③「書評『日中戦争と上海、そして私－古厩忠夫中国近現代史論集』」（『日本植民地研究』第18号、2006年）

所 属 学 会

日本植民地研究会

日本現代史研究会

中国現代史研究会

歴史学研究会



氏名	ササキ ヒロシ 佐々木 寛 SASAKI Hiroshi
性別	男
生年月日	1966年6月29日生
職名	准教授 (2003年4月～)
連絡方法	E-mail : shiroshi@nuis.ac.jp
学歴	1990年 立教大学法学部卒業 1996年 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
学位	法学修士 (中央大学、1993年3月)
職歴	1996年～1998年 立教大学法学部助手 1998年～2000年 日本学術振興会特別研究員 (PD)・中央大学法学部兼任講師 2000年～2003年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師
研究分野	「グローバル・デモクラシー (地球民主主義)」の理論的研究 国境を越える社会運動およびNGOの政治学的分析 国際機構の動態に関する理論的・実証的研究 東アジアの安全保障問題をめぐる理論的・実証的研究 現代戦争論
主要業績	<p>著書・論文・その他</p> <p>①「J.ガルトゥング平和理論の生成と展開——平和研究の新次元」『大学院研究年報』第23号 (中央大学) 1994年2月</p> <p>②「平和研究の理論的地平——21世紀の平和秩序を求めて」『平和研究』第20号 (日本平和学会) 1996年6月</p> <p>③「『グローバル・デモクラシー』論の構成とその課題——D.ヘルドの理論をめぐって」『立教法学』第48号 (立教大学) 1998年2月</p> <p>④「『地球社会』と民主主義原理——『オタワ・プロセス』を考える」『立教法学』第55号 (立教大学) 2000年4月</p> <p>⑤「グローバルな『全体主義』と『新しい戦争』」『歴史地理教育』第612号 2000年8月</p> <p>⑥『平和研究 第26号——新世紀の平和研究』(早稲田大学出版部) (編著) 2001年11月</p> <p>⑦「Atom-Politics in East Asia : Towards a Border-less Democracy」『情報文化学部紀要』第5号 (新潟国際情報大学) 2002年3月</p> <p>⑧「世界政治と市民——現代コスモポリタニズムの位相」高畠通敏編『現代市民政治論』(世織書房) 2003年2月</p> <p>⑨「イラク戦争と『安全保障』概念の基層」古城利明編『世界システムとヨーロッパ』(中央大学出版部) 2005年3月</p> <p>⑩『東アジア安全保障の新展開』(明石書店) (共編著) 2005年4月</p> <p>⑪「『戦争』を再考する」岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』(法律文化社) 2005年5月</p> <p>⑫『東アジア〈共生〉の条件』(世織書房) (編著) 2006年3月</p> <p>⑬ M.ウォルツァー『グローバルな市民社会へ向かって』(日本経済評論社) (共訳) 2001年10月</p> <p>⑭ D.ヘルド『デモクラシーと世界秩序』(NTT出版) (共訳) 2002年12月</p> <p>⑮「冷戦後の世界政治を読む」『AERAMook 新国際関係がわかる。』(朝日新聞社) 1999年5月</p> <p>⑯「地球化時代の〈アイデンティティ〉」『AERAMook 人間科学がわかる。』(朝日新聞社) 2001年10月 など。</p>
所属学会	日本国際政治学会 (将来構想委員) 日本平和学会 (理事) 日本政治学会



氏 名 ナガサカ イタル 長坂 格 NAGASAKA Itaru
 性 別 男
 生 年 月 日 1969年3月29日生
 職 名 准教授（2005年4月）
 連 絡 方 法 E-mail : nagasaka@nuis.ac.jp
 学 歴 1991年 国際基督教大学 教養学部卒業
 1994年 筑波大学大学院 地域研究研究科修了
 1998年 神戸大学大学院 文化学研究科単位取得退学
 学 位 博士（文学）（神戸大学、2007年2月）
 職 歴 1998年～2001年 神戸大学大学院文化学研究科助手
 2002年～2005年 新潟国際情報大学情報文化学部講師
 2006年～ 広島大学大学院国際協力研究科非常勤講師
 研 究 分 野 文化人類学、移民研究、トランスナショナリズム論、比較社会学、東南アジア研究、フィリピン研究
 主 要 業 績 著書
 ①『世界の住民組織:アジアと欧米の国際比較』（共著）（自治体研究社、2000年）
 ② *Post Colonialism and Local Politics in Southeast Asia*（共著）（New Day Publishers、2003年）
 ③『海外における日本人、日本のなかの外国人』（共著）（昭和堂、2003年）
 ④『東アジアの家族・地域・エスニシティ:基層と動態』（共著）（東信堂、2005年）
 論文
 ①「フィリピンにおけるバランガイの形成:フィリピン地域社会研究の一視点」（『社会学雑誌』第16号、1998年）
 ② "Kinship Networks and Child Fostering in Labor Migration from Ilocos, Philippines to Italy" (*Asian and Pacific Migration Journal* Vol.7, No.1、1998年）
 ③「故郷で養育される移住者の子供達:フィリピンからイタリアへ移住における家族ネットワーク」（『民族学研究』66巻1号、2001年）
 ④ "Cellular Phones and Filipino Transnational Social Fields" (*Pilipinas: A Journal of Philippine Studies*, Vol.40、2003年）
 所 属 学 会 日本民族学会、日本社会学会、日本オセアニア学会、日本移民学会、日本国際文化学会、米国人類学会（AAA）
 そ の 他 主な調査
 ①移住者送り出し母村における社会文化変化（調査地:フィリピン・イロコス地方、1993年1月～4月、1996年12月～4月、1997年9月～1998年10月、1999年8月）
 ②都市における地域住民組織の国際比較（調査地:フィリピン・ケソン市、ラワグ市、1995年10月）
 ③フィリピンにおける地方政治（調査地:フィリピン・イロコス地方、1999年12月、2000年12月）
 ④イタリアにおけるフィリピン人のネットワーク（調査地:イタリア・ローマ市、1998年11月、2001年8月）
 ⑤フィリピンにおける農村都市関係（調査地:フィリピン・マニラ首都圏、2001年10月、2002年8月、2005年12月）
 ⑥携帯電話とフィリピン人のトランスナショナルネットワーク（調査地:フィリピン・イロコス地方、2003年12月）
 ⑦第三世界都市における公共集合住宅住民の家族・コミュニティ（調査地:フィリピン・マニラ首都圏、2004年8月、2006年8月）
 ⑧育児中の主婦による携帯電話使用とその社会的意味（調査地:日本・新潟県、2005年7月～8月）



氏 名 矢口 裕子 YAGUCHI Yuko
性 別 女
生 年 月 日 1961年2月22日生
職 名 准教授 (2001年4月)
連 絡 方 法 E-mail : yaguti@nuis.ac.jp
学 歴 1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業
1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了
1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学
学 位 文学修士 (法政大学、1991年3月)
職 歴 東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4～2001.3)
受 賞 歴 1996年7月14日第回女性学研究国際奨励賞
研 究 分 野 アメリカ文学におけるジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)
主 要 業 績

ヤグチ ユウコ
矢口 裕子 YAGUCHI Yuko

女

1961年2月22日生

准教授 (2001年4月)

E-mail : yaguti@nuis.ac.jp

1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業

1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了

1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学

文学修士 (法政大学、1991年3月)

東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4～2001.3)

1996年7月14日第回女性学研究国際奨励賞

アメリカ文学におけるジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)

著書

『東アジア〈共生〉の条件』世織書房 (2006.3) 共著

論文

① "Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (I)" 『法政大学大学院紀要』第28号 (67-84頁) (1992.3)

② "Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (II)" 『法政大学大学院紀要』第30号 (55-74頁) (1993.3)

③ 「Sam Shepard, *Fool for Love*—カウボーイが女を愛する時」法政大学英文学会『英文学誌』第36号 (65-85頁) (1994.2)

④ 「Sam Shepard, *A Lie of the Mind*—新しいイヴの歌」日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』第32号 (57-74頁) (1996.3)

⑤ "The Text That Is the Writer—Anais Nin's Diary" *Anais—An International Journal*. Vol.16. Anais Nin Foundation (pp.49-60) (1998.3)

⑥ "The Imaginary Father" *Anais—An International Journal*. Vol.18. Anais Nin Foundation (pp.46-60) (2000.3)

⑦ 「『パリ、テキサス』あるいは砂漠のロマンス」全国アメリカ演劇研究者会議『アメリカ演劇』第12号 (65-85頁) (2000.6)

⑧ 「性/愛の家のスパイ—Henry&Juneから読み直す Anais Nin」日本英文学会『英文学研究』第80号 (13-25頁) (2003.10)

⑨ "Twittering Machine of Paradise—Glimpses of Two of Anais Nin's Japanese Daughters" *A Cafe in Space:Anais Nin Literary Journal*. Vol.1.Sky Blue Press (pp.106-17) (2003.11)

⑩ 「アナイス・ニンの娘たち—冥王まさ子と矢川澄子のグリンプス」『新潟ジェンダー研究』第5号 (pp.5-12) (2004.2)

⑪ 「ロマンティック・クィア—草野マサムネ ジェンダー試論」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号 (pp.39-50) (2005.3)

⑫ "A Spy in the House of Sexuality:Rereading Anais Nin through *Henry & June*" *A cafe in Space:Anais Nin Literary Journal*.Vol.4. Sky Blue Press (pp.22-34) (2007.3)

⑬ 「アナイス・ニンの「ジューナ」—『人工の冬』パリ版から」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号 (pp.57-60) (2007.5)

所 属 学 会

日本アメリカ文学会

日本英文学会

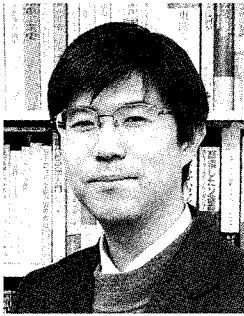
日本女性学会

日本平和学会

日本ヘンリー・ミラー協会



氏 名 ヨシザワ フミトシ 吉澤 文寿 YOSHIKAWA Fumitoshi
 性 別 男
 生 年 月 日 1969年1月7日生
 職 名 准教授（2006年4月）
 連 絡 方 法 E-mail : yosizawa@nuis.ac.jp
 学 歴 1992年3月 東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程卒業
 1995年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科地域社会研究専攻修士課程修了
 2004年7月 一橋大学大学院社会学研究科地域社会研究専攻博士課程修了
 学 位 社会学博士（一橋大学、2004年7月）
 職 歴 2000年3月～2002年2月 韓国湖南大学校外国語学部日本語科専任講師
 2002年10月～2006年3月 東京学芸大学・青山学院大学・関東学院大学・大東文化
 大学・明星大学非常勤講師
 研 究 分 野 朝鮮現代史、日朝関係史。主に外交における植民地（支配）責任問題の展開につ
 いて考察している。また、在日朝鮮人の歴史や、現在の分断体制下の朝鮮におけ
 る植民地主義についても研究課題としていきたいと考えている。今後、他国の事
 例と比較しながら、日本と朝鮮における植民地主義及び植民地（支配）責任を
 めぐる諸問題について考察を深めていきたい。
 主 要 業 績 著書
 ①『戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐって』クレイン、2005年（単著）
 ② 同時代史学会編『朝鮮半島と日本の同時代史』日本経済評論社、2005年（共著）
 ③ 板垣竜太・田中宏編『日韓 新たな始まりのための20章』岩波書店、2007年
 （共著）
 論文・その他
 ①「今日から見た日韓会談－その経緯と今日的意義－」（『戦争責任研究』31
 2001年3月）
 ②「決壊 史上初の日韓会談関連外交文書の公開から始まる『真実の濁流』に
 よせて」（『現代思想』33-6、2005年6月）
 ③「公開された日韓会談関連外交文書」（『アリラン通信』35、2005年6月）
 ④「公開された日韓会談関連外交文書について」（『戦争責任研究』49、2005年
 9月）
 ⑤「日本と朝鮮分断国家との『国交正常化交渉史』 歴史認識の問題を中心と
 して」（『情況』第3期56号、2005年10月）
 ⑥「韓国政府による日韓会談文書全面公開と日本の課題」（『インパクション』
 2005年10月）
 ⑦「在日朝鮮人史100年と日韓会談文書公開」（『Let's』50、2006年3月）
 ⑧「日本の朝鮮植民地支配責任の現状と課題－日韓国交正常化交渉とその後」
 （『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』116、2006年3月）
 ⑨「研究動向 日韓会談研究の現状と課題」（『歴史学研究』813、2006年4月）
 ⑩「植民地支配の「清算」とは何か－朝鮮を事例として」（『歴史評論』677、
 2006年9月）
 ⑪「資料紹介 2005年に韓国で公開された日韓会談関連外交文書について」
 （『近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER』18、2006年12月）
 所 属 学 会 歴史学研究会
 在日朝鮮人運動史研究会
 朝鮮史研究会
 韓日民族問題学会（韓国）
 歴史問題研究所（韓国）



氏 名	池田 嘉郎 IKEDA Yoshiro
性 別	男
生 年 月 日	1971年5月2日
職 名	講師 (2006年9月)
連 絡 方 法	E-mail : yoikeda@nuis.ac.jp
学 歴	1994年3月 東京大学文学部西洋史学科卒業 1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻修士課程修了 2005年10月 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻博士課程修了
学 位	博士 (文学) (東京大学、2005年10月)
職 歴	2003年4月～2006年3月 日本学術振興会特別研究員 (PD) 2004年4月～2006年8月 東京理科大学、成蹊大学、日本大学、敬愛大学、非常勤講師
研 究 分 野	近現代ロシア史
主 要 実 績	著書 ① (共著)『旧ソ連の民族問題』、木鐸社、1993年 ② (共著)『20世紀ロシア農民史』(奥田央編)、社会評論社、2006年 論文 ①内戦期ロシアにおける労働理念－生産アジテーションの分析を中心にして－(『史学雑誌』111 - 12 2002年12月) ②「内戦期のモスクワにおける党と行政」(『スラヴ研究』51 2004年5月) ③The Reintegration of the Russian Empire and the Bolshevik Views of "Russia" : The Case of the Moscow Party Organization (Acta Slavica Iaponica 22 2005年3月) ④「革命期ロシアにおける全般的労働義務制」(『史学雑誌』114 - 8 2005年8月) ⑤「内戦期ロシアにおける行政の自律性について－モスクワ市の事例に即して－」(『ロシア史研究』77 2006年1月) ⑥「革命期ロシアにおける労働とネイション・ビルディング」(『ロシア史研究』78 2006年5月)
所 属 学 会	ロシア史研究会、史学会
そ の 他	北海道大学スラブ研究センター学外共同研究員



氏 名 キャロリン・L・カルテンバック
Carolyn L. Kaltenbach

性 別 女

生 年 月 日 1967年11月3日

職 名 CEPインストラクター (2007年4月)

連 絡 方 法 E-mail : kltnbach@nuis.ac.jp

学 歴 1990年 ニューメキシコ州立大学卒業 (英語学)
1993年 コロラド大学コロラドスプリングス校教育学プログラム修了 (言語教育学)
1996年 カンザス大学修士課程修了 (TESL : 英語教育学)

学 位 言語教育学修士 (1996年)

職 歴 1993~1994年 ペリー小学校 (カンザス州) 英語教育プログラム責任者、指導インストラクター
1994~1996年 カンザス大学応用英語センターインストラクター (英語教育)
1996~1999年 沖縄県立向陽高等学校 英語教師 (JETプログラム)
2000~2001年 サンディア高等学校 (ニューメキシコ州) 英語教師
2001~2006年 上越教育大学 専任講師 (英語教育)
2006年 新潟大学非常勤講師 (英語教育)

研 究 分 野 1.Graphic Implementation of Orthographic Instruction
2.Intercultural Communication Studies
3.Educational Curriculum Design
4.Student-Centered Collaborative Curriculum Development

主 要 実 績 論文
① 2004 Implications of Hofstede's Cultural Variability Dimension Individualism-Collectivism for Foreign English Teachers in Japan." *Joetsu University of Education Bulletin, Vol. 23, No. 2, March.*
② 2003 Editor, *ALT Elementary School Handbook*. Joetsu University of Education and Joetsu Board of Education.
③ 1999 (Bartsch, Ellen & Kaltenbach, Carolyn) "Summ-thing to Summarize." *New Ways in Teaching English at the Secondary Level*, TESOL Publications.
④ 1998 "Tokyo Tarry." *1998 Summer JET Journal*.
⑤ 1998 "Changing Past Tense to Present Progressive." *1998 Summer JET Journal*.
⑥ 1997 "The Zen of Being Large." *1997 Summer JET Journal*

所 属 学 会 TESOL



氏 名	ハワード ゴードン ブラウン Howard Gordon Brown
性 別	男
生 年 月 日	1969年2月14日
職 名	CEPインストラクター（2006年4月）
連 絡 方 法	E-mail：brown@nuis.ac.jp
学 歴	1990年5月 ダルハウジ大学化学部卒業 1991年5月 フランシスコ・ザビエル大学教育学部卒業 2003年11月 南クイーンズランド大学大学院応用言語学修士課程卒業 2004年5月 南クイーンズランド大学大学院教育学修士課程卒業
学 位	化学学士号（1990年5月） 教育学学士号（1991年5月） 応用言語学修士号（2003年11月） 教育学修士号（2004年5月）
職 歴	アーメッド・シムシエック私立学校（中等部・高等部（1991年9月～1993年8月）） カナダ ハリファックス市 教育委員会勤務（1993年9月～1994年5月） 株式会社ジオスランゲージアカデミー（1994年5月～2001年7月） ジェイムス英会話学院（2001年8月～2006年3月）
研 究 分 野	1.Content Teaching 2.Extensive Reading 3.SelfAccess and Learner Autonomy
主 要 実 績	論文 ①The Reduction of Extra Syllables in Japanese EFL Learner's Pronunciation Through Haiku Writing Practice. 2007 ②Writing Haiku to Raise Awareness of Syllable Breaks and Reduce Katakana Pronunciation.2007 ③Coordinating Content Based Language Instruction with Content Seminars in a Liberal Arts Curriculum. 2006 ④Learner Perceptions of TOEIC Test Results and Language Skills. 2006 ⑤The Book of the Month Club — One Way to Bring Extensive Reading into an Eikaiwa Environment. 2005 ⑥The Evaluation of Computer Assisted Kanji Study Materials — Lexikan 2.0. 2004 ⑦A Bilingual Education Program in Turkey. 2003
所 属 学 会	全国言語教育学会（The Japan Association for Language Teaching） TESL Canada

情報 システム学科

赤木 敏子

大竹 康夫

岸野 清孝

近藤 進

笹川 壽昭

高木 義和

竹並 輝之

槻木 公一

永井 武

樋口 光明

藤瀬 武彦

山口 直人

渡辺 忠

石井 忠夫

桑原 悟

小宮山 智志

吉田 博

大山 毅

小野 陽子

河原 和好

佐々木 桐子

山田 尚史





氏名	アカキ トシコ 赤木 敏子 AKAKI Toshiko
性別	女
生年月日	1939年生
職名	教授（1994年4月）
連絡方法	E-mail：akagi@nuis.ac.jp
学歴	日本女子大学家政学部家政理学科卒業
学位	家政学士（日本女子大学）
職歴	1962年4月 日本専売公社中央研究所 入社 （1985年5月 日本たばこ産業株式会社に名称変更） 1988年4月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 1988年10月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 主任研究員 1994年3月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 退職 1971年4月～1997年3月 日本科学技術連盟官能検査研究会指導委員を兼職 1977年4月～1997年3月 実践女子学園大学非常勤講師を兼職
研究分野	日常生活における諸問題の分析。 情報教育の現状と今後の課題。
主要業績	論文 ①「新潟における情報システム化状況調査」本大学共同研究（1995） ②「暮らしの中の折込み広告」全国折込広告新潟大会（1998） ③「暮らしの中から(2)中学生の思いやり行動 統計」日本統計協会（2000.6） ④「暮らしの中から(3)若者と携帯電話とのこれからの関係 統計」日本統計協会（2000.7） ⑤「情報リテラシー教育の高度化に対応する教育方法に関する研究」本大学共同研究（2003）
所属学会	日本官能評価学会（理事） 日本行動計量学会 応用統計学会 情報システム学会
その他	新潟県卸売り市場審議会委員 新潟市中央卸売市場開設運営協議会委員 厚生労働省新潟地方社会保険医療協議会委員



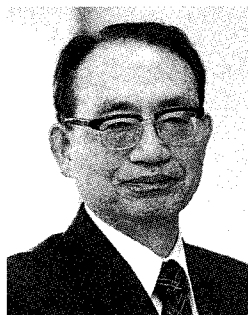
氏名 大竹 康夫 OHTAKE Yasuo
 性別 男
 生年月日 1940年1月23日生
 職名 教授 (2002年4月)
 連絡方法 E-mail : ohtake@nuis.ac.jp
 学歴 1964年 東京大学理学部物理学科卒業
 2000年 東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程後期課程満期退学
 学位 理学士 (東京大学、1964年3月)
 職歴 1964年～1989年 NEC中央研究所およびC&Cパブリックシステム本部勤務
 (コンピュータシステムの性能評価に関する研究、社会－技術システムのシステム開発、教育システム事業の推進、社内遠隔教育システムNESPACの開発に携わり、教育システム部長、本部長代理を歴任)
 1974年～1976年 (財)未来工学研究所 (科技庁所管) 出向 (主任研究員、テクノロジーアセスメントの調査研究に携わる。)
 1989～2002年 NECユニバーシティ勤務 (取締役・兼マルチメディア教育センター長、および主席技師長を歴任)
 1994年～2001年 文教大学人間科学部非常勤講師
 研究分野 ① ITを活用する人間活動システムのシステム計画に関する研究
 ② e-ラーニングシステムに関する研究
 ③ 技術経営(MOT; Management Of Technology)戦略と人材育成政策の研究
 主要業績 著書
 ① 「企業内教育における遠隔教育」、教育システム情報学会編、『教育情報ハンドブック』、5編13.3節、実教出版刊、2001.10
 ② 『実践・サテライト教育』、NEC文化センター刊、1990.6 (共著)
 論文
 ① 「Delivery of Corporate Virtual University for Workplace Continuing Learning」、Proc.ICDEDL'99、Beijing、1999.4 (共著)
 ② 「Distance Education by Satellite Communication Technology」、Proc.ASEE/ICEEP'96、Washington, D.C.、1996.6 (単著)
 ③ 「NESPACによる上流工程SE教育の展開」、情報処理学会研究報告、93-CE-30、1993.11 (共著)
 ④ 「システムズアプローチによる顧客問題解決への取り組み－システムエンジニア教育へのSSM導入の試み」、経営情報学会1993年春季全国研究発表大会、1993.5 (共著)
 ⑤ 「企業内衛星利用の動向」、テレビジョン学会誌Vol.46、N0.1、pp.13-22、1992. (単著)
 ⑥ 「A Networking Educational System with NESPAC」、『Computers in Education』、A.McDougall and C.Dowling (Ed.)、pp.997-1002、ESV、1990 (共著)
 所属学会 電子情報通信学会、情報処理学会、日本教育工学会、情報システム学会、研究・技術計画学会
 その他 文部省放送教育開発センター研究協力者 (1992-95)
 日本工学教育協会国際委員会委員 (1998-2001)



氏 名	岸野 清孝 KISHINO Kiyotaka
性 別	男
生 年 月 日	1949年4月20日
職 名	教授 (2004年4月)
連 絡 方 法	E-mail : Kishino@nuis.ac.jp
学 歴	1972年 京都工芸繊維大学工芸学部生産機械工学科卒業 1974年 京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科生産機械工学専攻修士課程終了
学 位	工学博士 (京都大学、2004年3月)
職 歴	1974年 株式会社日立製作所システム技術本部入社 1998年 株式会社日立製作所システム事業部ロジスティクスシステム部長 2002年 株式会社日立製作所システム事業部産業・流通システム本部長
研 究 分 野	製造・流通分野においてビジネスプロセスを分析し、ITの活用により業務改革を行うシステムの計画に関する研究 ①製造・流通におけるSCM (Supply Chain Management) の研究 ②製造・流通におけるロジスティクスのIT化の研究 ③トラック輸送の高度交通システム・ITS (Intelligent Transportation System) の活用によるIT化の研究
主 要 業 績	著書 ①「CIM生販統合の実現」日本経済新聞社 (共著) 1990年 ②「人工生命」同文書院 (共著) 2002年 論文 ①「On Stochastic Controllability for Nonlinear System」IEEE AUTOMATIC CONTROL, 1974 ②「FA and Physical Distribution at a Copy Machine Part Processing Works」International Physical Distribution Conference Tokyo, 1985 ③「Integrated and Distributed Production Control System for Daily Parts Manufacturing」Hitachi Reveiew, 1986 ④「FMSの動向と適用技術」無人化技術 1987年 ⑤「VANの利用による資材業務の合理化・ペーパーレス化」日立評論 1989年 ⑥「生産・販売統合CIMシステム」日立評論 1993年 ⑦「生販統合化における情報処理の技術・製品・活用法」ファクトリ・オートメーション 1994年 ⑧「需要変動に対応した生産計画」電気学会産業応用部門全国大会 1995年 ⑨「21世紀ビジネス革新を支えるCALSの展開」日立評論 1997年 ⑩「Development of Artificial Life Based Optimization System」Eighth International conference on parallel and Distribution Systems Korea IEEE COMPUTER SOCIETY, 2001 ⑪「ブローカーを利用した交通情報予測方式の検討」情報処理学会論文誌 2002年 ⑫「Arrival Time Prediction Based on Floating Car Data in the Fleet Management ASP」9th ITS World Congress, Chicago, 2002 ⑬「トラック運行管理ASPによる業務向け交通情報サービスの開発」計測自動制御学会産業論文集 2003年 ⑭「加速度の分布を用いた交通安全診断の考察」第2回ITSシンポジウム 2003年
所 属 学 会	情報システム制御学会、計測自動制御学会、交通工学研究会、情報システム学会
そ の 他	技術士 (経営工学部門、総合技術監理部門)



氏 名	近藤 進 KONDO Susumu
性 別	男
生 年 月 日	1949年3月5日生
職 名	教授 (2001年9月)・学生部長
連 絡 方 法	E-mail : kondo@nuis.ac.jp
学 歴	1972年 新潟大学工学部電子工学科卒業
学 位	博士 (工学、京都大学、1994年5月)
職 歴	1972年～2001年 日本電信電話株式会社 (元日本電信電話公社) 研究所
研 究 分 野	光ファイバー伝送用各種デバイス (レーザー、光変調器、光スイッチ、受光素子) および結晶成長 (バルク、液相エピタキシャル成長、気相エピタキシャル成長)
主 要 業 績	<p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ① "Liquid phase-epitaxial growth of single-crystal LiNbO₃ thin film", Appl.Phys.Lett.26, p489 (1975) ② "LPE growth of Li (Nb,Ta) O₃ solid-solution thin film waveguide on LiTaO₃ substrate", J.Crystal Growth 46, p314 (1979) ③ "Prevention of circumferential melt back in LPE growth of InP/InGaAsP/InGaAs/InP layers for APD", J.Crystal Growth 61, p8 (1983) ④ "660nm InGaP light emitting diodes on Si substrate", Appl.Phys.Lett.53, p273 (1989) ⑤ "MOVPE growth of strained InGaAs/InAlAs MQWs for a polarization insensitive electro-absorption modulator", J.Electron.Materials 25, p385 (1996) ⑥ "Ruthenium doped Semi-insulating InP Buried InGaAlAs/InAlAs Multi-Quantum-Well Modulators", Jpn.J.Appl.Phys.41, p1171 (2002) <p>特許</p> <p>"Semiconductor optical device and the fabrication method" United State Patent, No.US 6,717,187,B2 Apr.6 (2004) No.US 6,982,469 B2 Jan.3 (2006)</p>
所 属 学 会	電子情報通信学会 応用物理学会
そ の 他	信越情報通信懇談会：新世代情報通信網委員会委員長



氏 名
性 別
生 年 月 日
職 名
連 絡 方 法
学 歴
学 位
職 歴

ササガワ ヒサアキ

笹川 壽昭 SASAGAWA Hisaaki

男

1941年9月7日生

特任教授 (2007年4月)

E-mail: sasagawa@nuis.ac.jp

1964年 新潟大学人文学部人文科学科卒業

1967年 東京都立大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了

文学修士 (東京都立大学、1967年3月)

1967年 獨協大学外国語学部専任講師

1968年 新潟大学教養部助手

1969年 新潟大学教養部専任講師

1975年 新潟大学教養部助教授

1987年 新潟大学教養部教授

1994年 新潟大学経済学部教授

研 究 分 野
主 要 業 績

中世英語英文学、英語史、英語教育

著書 (共編・共著)

① 研究社新英和大辞典 (第5版) (研究社、1980年)

② ロイヤル英和辞典 (旺文社、1990年)

③ 英文 D. キャドベリィー著『環境ホルモン汚染問題の解明に挑む科学者たち』
(英宝社、1999年)

④ 原文対訳「カンタベリィ物語・総序歌」(松柏社、2000年)

⑤ 徹底解明 欽定英訳聖書初版 マタイ福音書 (研究社、2002年)

論文 (共著・単著)

① 「チョーサーの散文における語順—S-V-O型について—」新潟大学教養部研究紀要、第1集 (1969.3)

② 「Some Observations on the Use of *Gan* in Chaucer's Poetry」新潟大学教養部研究紀要、第5集 (1975.3)

③ 「チョーサーのKnight's Taleにおける史的現在及び史的完了」新潟大学教養部研究紀要、第12集 (1981.12)

④ 「チョーサーにおける文彩的否定」新潟大学教養部研究紀要、第15集 (1984.12)

⑤ 「*The Romaunt of the Rose* における翻訳の技巧と文体的特徴」新潟大学教養部研究紀要、第18集 (1987.12)

⑥ 「On the Use of *That* in Chaucer's *Tale of Melibee*」新潟大学教養部研究紀要、第25集 (1993.12)

⑦ 「The Authorized Version of the Bible (1611)『マタイ福音書』の英語」新潟大学言語文化研究、第七号 (2001.12)

⑧ 「キャクストン版カンタベリー物語 第2版 (Pepys' copy) の総序歌の転写および校合」新潟大学言語文化研究、第十一号 (2006.3)

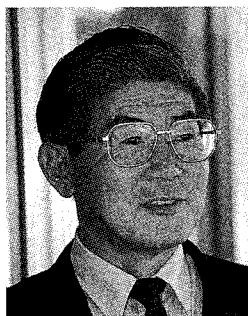
所 属 学 会

日本中世英語英文学会

新潟大学英文学会



氏名	高木 義和 TAKAGI Yoshikazu
性別	男
生年月日	1949年10月20日生
職名	教授 (1996年4月)・情報システム学科長
連絡方法	E-mail : takagi@nuis.ac.jp
学歴	1973年 京都大学農学部食品工学科卒業
学位	農学博士 (京都大学、1983年3月)
職歴	1973年～1996年 日本たばこ産業株式会社 (入社時は日本専売公社) 葉たばこ香喫味成分の微量化学分析・構造決定・合成に関する研究、研究管理、新規事業のための調査研究、特許の情報管理および出願、喫煙と健康に関する科学情報の管理業務に従事。
研究分野	情報をめぐるさまざまな考え方の中で、情報を人・物・金につづく第4の資源ととらえ、実体としての組織や社会における、有効な情報発信、情報受信、情報管理、情報解析等、情報の価値に関する研究を行っている。
主要業績	<p>論文</p> <p>①「概説情報論～情報とは何か～第12回～第1回」単著、2003.10～2002.12 知のWebマガジンen、(10) 2003～(12) 2002、 (http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0310/main3.cfm～ http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0211/main3.cfm)</p> <p>②「商用データベースおよび検索エンジンを使用した情報リテラシー教育としての情報検索」単著、2002.3 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.5、2002</p> <p>③「時系列データによる疾患と食品摂取量の関連の解析」単著、1999.3.19 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、205、1999</p> <p>④「情報資源としてのインターネット」単著、1997.10.14 第34回情報科学技術研究集会発表論文集、163、1998</p> <p>⑤「インターネットによる情報検索」共著、1996.10.22 第33回情報科学技術研究集会発表論文集、53、1997</p> <p>⑥「インターネットにおける情報検索」(情報管理 Vol.38、No.10 Jan. 1996)</p> <p>⑦「水府葉たばこの香気成分に関する研究」(京都大学農学部博士論文 1982) その他の文献 (http://www.nuis.ac.jp/~takagi/を参照)</p> <p>⑧「日本と北米における情報サービス産業の構造比較～カナダ・アルバータ州立大学Extension学部において倫理委員会の承認を受け実施したアルバータ州エドモントンにおける情報サービス産業関連企業に対する調査報告書」単著、新潟国際情報大学、2006.9</p> <p>⑨「日本と北米における情報サービス産業の構造比較(2)～新潟における情報サービス産業関連企業に対する調査報告書」単著、新潟国際情報大学、2007.4</p>
所属学会	情報システム学会 三田図書館情報学会 情報処理学会 日本栄養・食糧学会 日本分類学会
その他	(財)パテルメモリアル研究所 客員研究員 (1987) 情報処理学会情報システムと社会環境研究会運営委員 (2001.4～2005.3) 情報システム学会理事 (2005.4～)



氏 名	タケナミ テルユキ 竹並 輝之 TAKENAMI Teruyuki
性 別	男
生 年 月 日	1941年1月29日生
職 名	教授 (1994年4月)
連 絡 方 法	E-mail : takenami@nuis.ac.jp
学 歴	1963年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業 1965年 慶應義塾大学大学院工学研究科管理工学専攻修士課程修了
学 位	工学修士 (慶應義塾大学、1965年3月)
職 歴	1965年 (株)東芝入社。情報システムの開発、プロジェクト管理、セールスサポート等に従事、流通・金融システム事業部システム部長、情報処理・制御システム本部システム担当技師長を歴任し、1994年退職。
研 究 分 野	ビジネス情報システムを開発するための、システム分析、設計、開発方法及びシステム開発プロジェクトの管理方法、情報システムの評価方法の研究を通して、良い情報システムとはどのようなものか、使いやすく、役に立つ情報システムはどのように設計すれば良いかを追究する。また、来たるべきネットワーク社会に対応した企業組織の変化、その中における管理者の役割と行動の変化について研究する。
主 要 業 績	<p>著書</p> <p>①『多変量解析の基礎』(共訳)サイエンス社 (1972)</p> <p>②『情報システムハンドブック』(共編)培風館 (1989)</p> <p>③『応用システム開発の重点解説』(共著)アイテック (1995)</p> <p>④『情報システム基礎』(共著)オーム社 (2006)</p> <p>論文</p> <p>①「ソフトウェアの標準化」(共著) NTIS (1979)</p> <p>②「産業界が期待する情報システム技術者教育について」私学公論 (1991)</p> <p>③「UNIXベースのクライアント/サーバ大規模ビジネスシステムの構築」情報処理学会 (共著) (1993)</p> <p>④「新潟国際情報大学における情報システム教育の現状と課題」(共著) 情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム (2001)</p>
所 属 学 会	<p>情報処理学会</p> <p>三田図書館情報学会</p> <p>情報システム学会</p>



氏名 槻木 公一 TSUKIGI Kouichi
 性別 男
 生年月日 1946年10月9日生
 職名 教授（1996年4月）・情報文化学部長
 連絡方法 E-mail：tsukigi@nuis.ac.jp
 学歴 1971年 東京大学工系大学院航空学修士課程修了
 学位 航空学修士（東京大学、1971年3月）
 職歴 1993年～1996年（財）鉄道総合技術研究所SI 事業推進部長
 研究分野 情報システム分析設計方法論。座席予約システムやTPモニタなどの応用研究と実システムの開発経験を踏まえ、個人・企業・社会などの組織体と情報処理技術が適切に役割分担あるいは相互補完して、融和一体化した情報システムを構築するための方法論を追及する。特に、利用者の様々な立場を重視するデザインの枠組みや情報システムのモデル作りを進めている。

主要業績

著書
 ①『情報システムの分析と設計』培風館（共訳）1995年

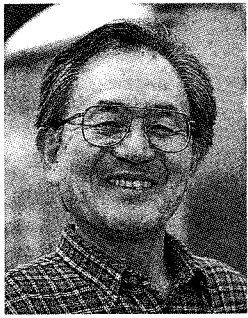
論文
 ①「新潟国際情報大学における情報システム教育の現状と課題」（共著）
 情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム（2001）
 ②「旅行者中心の旅行支援システムに関する一考察」新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号 2005年
 ③「文芸作品のWebユーザービリティ向上のための情報デザイン」（共著）
 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第9号 2006年

フィールドワーク等
 特許（1905460）指定券発行装置（共案）1987年
 特許（1444294）高速出札システム（共案）1988年
 特許（1542849）端末ファイルの保守方式（共案）1990年

所属学会 情報処理学会、人工知能学会、情報システム学会
その他 学会活動：情報処理学会理事（1995.5～1997.5）
 技術士（情報処理部門20500）



氏 名	ナガイ タケシ 永井 武 NAGAI Takeshi
性 別	男
生 年 月 日	1937年12月13日生
職 名	教授 (1995年4月)
連 絡 方 法	E-mail : nagai@nuis.ac.jp
学 歴	早稲田大学第一理工学部金属工学科卒業
学 位	工学博士 (早稲田大学、1976年2月)
職 歴	1981年～1987年 (株)富士通研究所材料技術部長 1988年～1990年 (株)富士通研究所管理部長 1991年～1995年 (株)富士通研究所情報システムセンター長
研 究 分 野	オープンな情報システムの構築 オープンな情報システムの運用
主 要 業 績	著書 ①『世界を結ぶ情報ハイウェイ—インターネット入門』富士通経営研修所 (1994) 論文 ①菊池浩明、黒田康嗣、永井武：情報処理学会誌、36巻 (1995)、第8号「プライバシー強化メールPEMにおける証明書配布の実装と評価」p.2063. ②共著、コラボレーション研究会編「情報孤島日本の危機」工業調査会 (1996) ③永井武、関英基、槻木公一：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第2号 (1999)「新潟国際情報大学の就職情報システム」p.237. ④永井武：市政、vol.48 (1999)、第3号「ネットワーク社会に向け地方行政ができること」p.21 ⑤永井武、関英基：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号 (2000)「ネットワーク社会に必要な日本および世界の情報通信基盤の状況」p.219. ⑥永井武、河原和好、古泉友幹：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第8号 (2005)「通信行政の護送船団方式をくずしたIP電話技術とその普及」p.221 ⑦河原和好、永井武：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第8号 (2005)「夏期セミナーにおける日本語環境構築」p.179 ⑧永井武：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第10号 (2007)「オープンソースソフトウェア文化」p.193-199
所 属 学 会	情報処理学会



氏名	樋口 光明 HIGUCHI Mitsuaki
性別	男
生年月日	1937年9月3日生
職名	教授 (2003年4月)
連絡方法	E-mail : hig@nuis.ac.jp
学歴	1961年 九州大学理学部数学科卒業
学位	理学士 (九州大学、1961年3月)
職歴	1961年4月～1986年3月 旭化成工業株式会社 1987年 旭化成情報システム株式会社出向 1991年 延岡コンピュータ・アカデミー出向 1996年4月～ 新潟国際情報大学専任講師
研究分野	情報処理システムの設計全般。上流工程（フィージビリティスタディ）から下流（プログラミング）まで。特に最近は人工知能、その中でもエキスパートシステムの設計・開発。ここ数年は遺伝的アルゴリズムを用いたスケジューリング問題の解法。
主要業績	<p>著書</p> <p>①『農業分野におけるエキスパートシステム適用可能性』旭リサーチセンター 1988年</p> <p>論文</p> <p>①「多品種少量生産向上の製造スケジューリングに対するGAの適用」 情報処理学会 1995年</p> <p>②「遺伝的アルゴリズムのフライトスケジューリング問題への適用」 電子情報通信学会 1996年</p> <p>③「変則遺伝的アルゴリズムによる新潟県の衆議院議員選挙（小選挙区）の選挙区分割についての試案」 1998年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第1号 217～231頁</p> <p>④「An Application of the Genetic Algorithm to Scheduling Problems Using the Concept of Differential Penalty.」 1996年9月 Second Joint Conference on Knowledge-Based Software Engineering. 202～205頁</p> <p>⑤「『組合わせ問題』に適用する遺伝的アルゴリズム ～交叉不使用の意味するもの～」 単著 2000年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号241～253頁</p> <p>⑥「Applying of Character Preserving Mutation to Scheduling Problem」 2000年9月 Knowledge Based Software Engineering 59～64頁</p> <p>⑦「形質遺伝を重視した突然変異の提案とその有効性」 2001年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第4号123～135頁</p> <p>⑧「A proposal for a swap-type mutation of the genetic algorithm and its application to Job Shop Scheduling problems」 2002年9月 IOS press/Knowledge-Based software Engineering 307～312頁</p> <p>⑨「二つの「交換型突然変異」の発想の必然性」 2003年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第6号 177～184頁</p>
所属学会	情報処理学会 人工知能学会



氏 名
性 別
生 年 月 日
職 名
連 絡 方 法
学 歴

フジセ タケヒコ
藤瀬 武彦 FUJISE Takehiko

男

1962年4月22日生

教授（2002年4月）

E-mail : fujise@nuis.ac.jp

1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業

1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了

1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了

学 位

体育学修士（東海大学、1987年3月）

博士（医学）（東海大学、1992年9月）

職 歴

1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師

1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師

1998年4月～ 新潟国際情報大学助教授

2002年4月～ 新潟国際情報大学教授

研 究 分 野

体育学（運動生理学、肥満学）

主 要 業 績

著書

- ①『筋力をつくるトレーニング』長澤純一編著「体力とはなにか」、NAP、190～206、2007年

論文

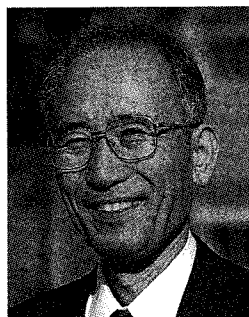
- ① 藤瀬武彦・橋本麻里・長崎浩爾・岩垣丞恒・山村雅一「歩行トレーニング時の高濃度酸素ガス吸入が皮下脂肪厚及び体周囲に及ぼす効果」新潟体育学研究、Vol.21、35～45、2003年
- ② 藤瀬武彦「日本人及び欧米人女子学生におけるボディイメージの比較」体力科学、第52巻第4号、421～432、2003年
- ③ 藤瀬武彦・重原麻里・長崎浩爾・高橋 努・岩垣丞恒・山村雅一「無酸素的運動時の高濃度酸素ガス吸入が作業成績に及ぼす効果」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第5号、265～282、2002年
- ④ 藤瀬武彦・長崎浩爾「青年喫煙者の漸増負荷運動における作業成績及び生理的変量に及ぼす一時的喫煙中止の効果」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号、187～202、2000年
- ⑤ 藤瀬武彦・長崎浩爾「青年男女における隠れ肥満者の頻度と形態的及び体力的特徴」体力科学、第48巻第5号、631～640、1999年
- ⑥ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・山村雅一「持久的運動鍛練者の全身持久力に及ぼす高酸素トレーニングの効果」トレーニング科学、第10巻第2号、87～96、1998年
- ⑦ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・松本正彦・山村雅一「漸増負荷運動時の高濃度酸素吸入が持久的運動鍛練者の作業成績及び生理的変量に及ぼす効果」トレーニング科学、第9巻第2号、31～38、1997年
- ⑧ 藤瀬武彦・他「一般青年男女における筋力評価尺度としてのバーベル挙上能力測定の試み」体育学研究、第39巻第6号、403～416、1995年
- ⑨ Fujise,T., Terao,T., and Nakano,S.「Effects of endurance training under hyperoxia on serum and tissue lipid levels in rats.」Tokai J. Exp. Clin. Med., Vol.17, No.2, 67～73, 1992
- ⑩ 藤瀬武彦・内山秀一・寺尾 保・中野昭一「ラットの糖・脂質代謝に及ぼす高濃度酸素環境下の持久的トレーニングの影響」体力科学、第40巻第2号、208～218、1991年

所 属 学 会
そ の 他

日本体育学会・日本運動生理学会・日本体力医学会・日本肥満学会・日本生理学会
新潟県パワーリフティング協会理事（1998年度～）・生涯健康開発特別委員会委員（日本パワーリフティング協会、2006年～）



氏 名	山口 直人 YAMAGUCHI Naoto
性 別	男
生 年 月 日	1957年3月31日生
職 名	教授 (2005年4月)
連 絡 方 法	E-mail : yamaguti@nuis.ac.jp
学 歴	1979年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業 1996年 東京工業大学大学院社会工学専攻博士課程修了
学 位	工学士 慶應義塾大学 1979年3月
職 歴	1979年4月～1999年3月 宇都宮市役所勤務 1991年～1993年 東京工業大学工学部非常勤講師 1996年～ 日本女子大学人間社会学部非常勤講師 2003年4月～2004年3月 ニューイングランド大学客員教授
研 究 分 野	専門は、計画学、コンピュータによるデータ解析および都市システム理論ですが、データ解析の純粋な理論を研究するのではなく、現実のデータを用いての実証研究です。長年、行政実務を行って来ましたが、都市計画という立場で、都市や地域をデータによって解析するという仕事を中心でした。政策を立案して検討・協議することを科学的に行うために、都市システムモデルというものを学び、都市シミュレータを作成して来ましたが、当時はコンピュータ単体上で単独で動かすものだったために、行政の現場に定着することは難しい状況でした。その後、その都市シミュレータを中心として、データベースやプレゼンテーションツールを統合し、さらにネットワークシステムとして、多くの人（担当者）が使えるようにするための研究をして来ました。これからは、行政内のシステムから地域社会へも範囲を広げて、地域の人たちと接しながら、行政計画を立案し策定するシステムを研究したいと考えています。
主 要 業 績	<p>論文</p> <p>①熊田、兼田、五十嵐、山口（1990）「Gaming/Simulation to Create Planning Culture」ISAGA/NASAGA</p> <p>②山口（1991）「地方自治体における計画策定支援システムの整備方策」日本都市情報学会</p> <p>③山口（1991）「地方都市における住民の居住環境評価の構造と空間分布」日本地域学会</p> <p>④山口、五十嵐（1993）「計画策定支援型都市情報システムの核としての都市システムモデルの開発に関する研究」日本都市情報学会</p> <p>⑤山口（2000）「日本の地方自治体におけるGISの現状と整備要件」新潟国際情報大学 紀要第3号</p> <p>⑥山口（2000）「町丁目データによる人口移動分析」統計第51巻第2号</p> <p>⑦山口（2001）「地方自治体ホームページと統計情報提供の現状」統計第52巻第8号</p> <p>⑧山口（2004）「GIS活用における小地域データ整備の現状と展望」統計第55巻第8号</p>
所 属 学 会	日本統計学会 日本地域学会 人文地理学会 日本都市計画学会 日本社会情報学会 地理情報システム学会
そ の 他	2001年～ 宇都宮地域情報化専門会議委員長 2001年～2002年 新潟県IT&ITS推進協議会 地域情報化文化委員会電子自治体検討部会長



氏 名 ワタナベ タダシ
渡辺 忠 WATANABE Tadashi

性 別 男

生 年 月 日 1939年2月11日生

職 名 教授 (1994年4月)

連 絡 方 法 E-mail : watanabe@nuis.ac.jp

学 歴 1961年 北海道大学理学部数学科卒業
1966年 防衛大学校理工学研究科電子工学専攻課程修了
1970年 上智大学大学院経済学研究科修士課程修了

学 位 経済学修士 (上智大学、1970年3月)

職 歴 1984年 防衛庁陸上幕僚監部分析室長 (2年4ヶ月)
1988年 防衛庁統合幕僚監部分析室長 (3年)

受 賞 歴 日本オペレーションズ・リサーチ学会フェロー 1994年4月

研 究 分 野 オペレーションズ・リサーチ (OR)
地域のOR、行政のOR、軍事のOR

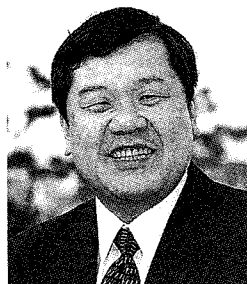
主 要 業 績 著書
①『初等ORテキスト』日科技連出版社 (共著) 1972年
②『ORワークブック』日科技連出版社 (共著) 1984年

論文
①「災害における輸送の問題」 (共著) 日米ORセミナー 1989年
②「21世紀における防衛のあり方」 (共著) 防衛庁ORセミナー 1990年
③「戦闘シミュレーションについて」 (単著) 陸戦研究 12月号 17—34
1993年

所 属 学 会 日本オペレーションズ・リサーチ学会
経営情報学会
日本シミュレーション学会



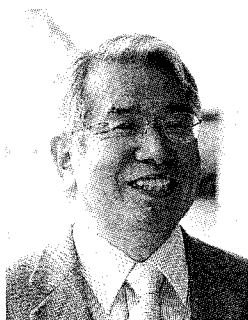
氏 名	イシイ タダオ 石井 忠夫 ISHII Tadao
性 別	男
生 年 月 日	1955年11月3日生
職 名	准教授(2001年4月)
連 絡 方 法	E-mail : ishii@nuis.ac.jp
学 歴	1980年 山形大学工学部電子工学科卒業 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了
学 位	工学修士(山形大学、1982年3月) 博士(情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月)
職 歴	1982年 日立製作所(株)入社、計測器事業部(旧、那珂工場)において、理化学分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光/分光光度計、液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年に退社。 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員。
研 究 分 野	1) 非標準論理、特にnon-Fregean logicの体系の研究 2) 構成的型理論に基づいたソフトウェア発展機構の研究
主 要 業 績	論文 ①「Propositional calculus with identity」, Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.27, Nr.3, 1998, pp.96-104. ②「A note on varieties of PCI-algebras with EDPG」, Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.28, Nr.2, 1999, pp.75-81. ③「Propositional calculus with identity」, Proceedings of the 31st MLG meeting at Miho, Shimizu, November 24-26, Japan 1997, PP.22-24. ④「Modality, implication and identity」, XLV History of Logic Conference, October 26-27, Jagiellonian University, Krakow, Poland 1999. ⑤「An Extension of Martin-Lof's Type Theory with an Evolution Relation」, Proceeding of the 34th MLG meeting at Echigo-Yuzawa, January 9-12, Japan 2001, pp.33-37. ⑥「A formal theory of the calculus of indication」, Bulletin of NUIS, Vol.9, 2006. ⑦「ソフトウェア仕様の差分について」, Bulletin of NUIS, Vol.10, 2007.
所 属 学 会	日本数学会 日本ソフトウェア科学会 情報処理学会 情報システム学会



氏 名	クワハラ サトル 桑原 悟 KUWAHARA Satoru
性 別	男
生 年 月 日	1956年7月15日生
職 名	准教授（2001年4月）
連 絡 方 法	E-mail：kuwahara@nuis.ac.jp
学 歴	1977年3月 東京都立工業高等専門学校機械工学科卒業 1981年3月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業 1983年3月 東京農工大学大学院工学研究科修了
学 位	工学修士（東京農工大学、1983年3月）
職 歴	1983年4月～2000年6月：三菱電機株式会社 情報システム技術センタ 専任 2000年7月～2001年3月：KPMGビジネスアシュアランス株式会社 シニアマネージャ
研 究 分 野	情報セキュリティ。情報化社会の充実には、テクノロジーの発展とそれを実社会で利用するフレームワークの構築が重要である。特にインターネットのようなオープンネットワークにおいて、個人や組織の情報の完全性、可用性、機密性を確保するためのテクノロジーと利用のためのフレームワークについて研究を行っている。
主 要 業 績	<p>論文</p> <ol style="list-style-type: none"> ① e-japan/u-japanにおける一般利用者のための情報セキュリティ認知の社会環境に関する一考察 単著 2005.11 情報処理学会IS研究報告 情報処理学会 ② ビジネスアプリケーションのための新しいアクセス管理の視点 単著 2005.3 新潟国際情報大学紀要第8号 新潟国際情報大学 ③ 「大学の役割とIT化に関する一考察」単著 2003.9 情報処理学会 IS研究報告 情報処理学会 ④ 「地方私立大学におけるIT利用に関する一考察」単著 2003.3 新潟国際情報大学紀要第6号 新潟国際情報大学 ⑤ 「Mobile phone as secure terminal for e-business」単著 2002.8 Japan-US Joint Seminar on e-business and i.business Satoru KUWAHARA ⑥ 「EC・セキュリティソリューション」2000.4 三菱電機技報Vol.74 No.4 三菱電機株式会社 佐々木、桑原 他 ⑦ 「社内認証局を設置し、グループ企業にデジタル認証書を発行」共著 2000.1（財）関西情報センタ機関紙（財）関西情報センタ 桑原、中村 ⑧ 『三菱電機におけるインターネットを利用した企業間連携システムのセキュリティの実際』日本テクノセンター セミナー講演 1999年 ⑨ 『JapanNet 認証サービスを利用した社内情報システム』共著 1998.5 三菱電機技報Vol.72 No.5 三菱電機株式会社 桑原、遠藤
所 属 学 会	情報処理学会 日本リスク研究学会
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本電子署名・認証パートナーシップ運営委員 ・ 情報処理技術者試験（経済産業大臣所管）試験委員 ・ Information Systems Audit and Control Association会員 ・ CISA (Certified Information Systems Auditor) ・ CISM (Certified Information Security Manager) ・ 情報処理学会 情報システムと社会環境研究会 運営委員



氏 名	小宮山 智志 KOMIYAMA Satoshi
性 別	男
生 年 月 日	1969年5月3日生
職 名	准教授 (2004年4月)
連 絡 方 法	E-mail : komiyama@nuis.ac.jp
学 歴	1994年 中央大学文学部社会学科卒業 1996年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了 1999年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程中退
学 位	社会学修士 (中央大学、1996年3月)
職 歴	1999年 中央大学文学部社会学科非常勤講師
研 究 分 野	専門は社会学です。主に統計的な社会調査によって得られたデータを分析し、以下のようなテーマに取り組んでおります (少数事例調査や第二次資料を用いた研究なども行っています)。 1) 人々の多様な意識のバリエーションとその生成の仕組みを明らかにすること 2) 多様な意識をもつ人々が混在する社会における制度・慣習等についての合意可能性 3) 制度・慣習等が人々の意識・行動に与える影響 2007年度より文部科学省の科学研究費補助金の交付をうけ、「職業における“楽しみ”の階層研究」を行っております。また地域の企業と連携し、マーケティング調査を実施しております。
主 要 業 績	論文 ①「コンピュータ活用の差異がE-Learningの評価に及ぼす影響」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第10号 pp.99-106 2007年) ②「階層線形モデルによる“地域不公平感”の分析」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号 pp.161-178 2004年) ③「Perception of “effort,” “Ability,” and “Equal Opportunity” in Japanese Society」(M.Miyano (ed.) Japanese Perception of Social Justice:How Do They figure out What Ought to Be, Ministry of Education, Sports and Culture Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Report, 09410050, 2000 pp.87-100) ④「三条・燕市製造業者間のデジタルデバインド」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号 pp.103-121 2003年) ⑤「不公平感の地域格差におけるマルチレベル分析の応用」(紀要 中央大学文学部社会学科第10号 pp.199-213 2000年) ⑥「消費税・所得税に関する世論についての試論的研究」(社会科学研究所年報 第3号 pp.67-79 1999年) ⑦「日本の公正地図」(宮野勝[編]『公平感と社会階層』科研報告書 pp.195-214 1998年) ⑧「新聞における公正」(宮野勝[編]『日本人の公正観』中央大学社会科学研究所報告書 第17号 pp.193-202 1996年) ⑨「公正観の深層理解:自由面接データの分析」(宮野勝[編]『社会的公正の研究:理論実証・応用』科研報告書 pp.154-165 1996年)
所 属 学 会	数理社会学会 日本社会学会 関東社会学会 日本行動計量学会
そ の 他	新潟市西区自治協議会委員



氏 名 ヨシダ ヒロシ 吉田 博 YOSHIDA Hiroshi
 性 別 男
 生 年 月 日 1943年3月8日生
 職 名 准教授(2006年4月)
 連 絡 方 法 E-mail: hyoshida@nuis.ac.jp
 学 歴 1966年 東京工業大学理工学部経営工学科卒業
 学 位 工学士(東京工業大学 1966年3月)
 職 歴 1966年~1972年 三共株式会社
 1972年~1987年 住友ビジネスコンサルティング株式会社(現 日本総合研究
 所) マーケティング事業部長
 1987年~2006年 エムアイシー (Marketing Innovation Consulting) 代表
 2005年~2006年 日本福祉大学情報社会科学部 非常勤講師

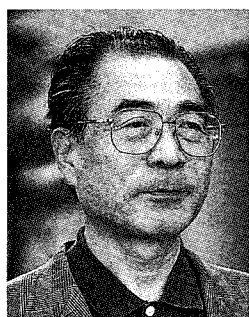
研 究 分 野 ① 地域・地場産業の振興と産官学の連携(地域ブランド戦略、製品企画・情報発
 信・販売の展開)
 ② 非営利組織(行政、福祉、NPO等)のマーケティング
 ③ 起業・ベンチャービジネス

主 要 業 績 著書
 ①「絞込み思考の技術」(共著)(1985年、経済界)
 ②「地域とマーケティング」(共著)(1992年、国元書房)
 ③「仲間と暮らす家づくり」(共著)(1994年、日経BPセンター)

論文
 ①「地域活性化に向けてのベンチャー起業の育成・支援」
 (1997年総合研究開発機構 NIRA政策研究1997 VOL10)
 ②「地域ブランドと地域活性化ー盛岡ブランドの展開ー」
 (2007年5月新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号)

所 属 学 会 産学連携学会
 日本NPO学会
 日本中小企業学会

そ の 他 ・東京都墨田区商工業アドバイザー
 ・東京都荒川区異業種交流アドバイザー
 ・東京都台東区「台東区産業振興ビジョン策定委員会」(産業部会長)
 ・岩手県盛岡地域地場産業振興センター専門委員
 ・独立法人中小企業基盤整備機構「地域ブランドアドバイザー」(岩手県盛岡ブ
 ランド)
 ・東京都「東京都老人総合研究所中期経営計画検討委員会」(委員)
 ・東京都町田市社会福祉協議会「財源確保研究会」(座長)
 ・東京都港区「福祉施設事業者候補選定委員会」(委員長)
 ・東京都港区「指定管理者候補選定委員会」(委員)
 ・国土庁ネオふるさと創造プログラム「人間村宝」企画(新潟県大島村にて実施)



オオヤマ タケシ
 氏 名 大山 毅 OHYAMA Takeshi
 性 別 男
 生 年 月 日 1940年3月2日生
 職 名 講師 (1994年4月)
 連 絡 方 法 E-mail : ohyama@nuis.ac.jp
 学 歴 1964年 神奈川大学工学部応用化学科卒業
 学 位 学士 (工学、1964年3月)
 職 歴 1964年4月～1966年2月 川口化学工業株式会社
 1966年4月～1994年3月 慶應義塾大学理工学部
 研 究 分 野 人間工学の立場から人間の特性およびその測定方法について研究しています。
 また、職場や家庭など生活のあらゆる場面において、人間が「快適」であるための条件を探り、「快適」であることを実現することをめざしています。
 主 要 業 績 論文
 ①「四日市コンビナートの事故におけるヒューマンエラーの分析」(共著)
 (1990.12.12, Technical Report No.90003, Department of Administration Engineering Faculty of Science and Technology Keio University)
 ②「超音波探傷における作業姿勢の影響」(共著)(日本設備管理学会誌 Vol.5 No.1, 8-15,1993)
 ③「手動制御系における予測情報の効果」(人間工学 Vol.29 No.5,313-319,1993)
 ④「コンビナートにおけるヒューマンエラーの相関分析」(1993.4.2, Technical Report No.93004, Department of Administration Engineering Faculty of Science and Technology Keio University)
 ⑤「反応時間に関する一研究」(1993.5.10, Technical Report No.93009, Department of Administration Engineering Faculty of Science and Technology Keio University)
 所 属 学 会 日本人間工学会
 バイオメカニズム学会
 日本設備管理学会
 情報文化学会
 そ の 他 日本人間工学会評議員



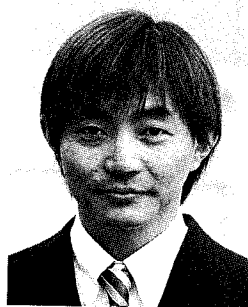
氏名	オノ ヨウコ 小野 陽子 ONO Yoko
性別	女
職名	講師 (2005年4月)
連絡方法	E-mail : onoyk@nuis.ac.jp
学歴	1996年 東京理科大学工学部経営工学科卒業 1998年 東京理科大学大学院 工学研究科 修士課程 経営工学専攻修了 2001年 東京理科大学大学院 工学研究科 博士課程 経営工学専攻修了
学位	博士(工学)、(東京理科大学、2001年3月)
職歴	2001年4月～2004年3月 東京理科大学 助手 2002年4月～2004年3月 芝浦工業大学 非常勤講師 2004年4月～2005年3月 島根県立大学 講師
研究分野	計算機統計学、代数の形式化と計算機上での自動証明システム構築
主要業績	論文 ① Formalization of Hensel's Lemma, Kobayashi,H.,Suzuki,H.and Ono,Y. , Theorem Proving in higher Order Logics,Oxford University Computing Laboratory Programming Research Group Research Report PRG-RR- 05-02 (2005) 114-127. ② Random generation of $2x \cdots x 2x$ J contingency tables,Matsui T.,Matsui Y.and Ono,Y.,Theoretical Computer Science 326 (2004) 117-135. ③ Symbolic Algorithms for obtaining Moments and "Moments of Moments"of Bootstrap Distributions,Ono,Y.and Niki,N.,Journal of Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation,vol.8,No.2 (2001) 37-48 ④ On Computer Edication in Japan,Ono,Y.and Asahi,Y.,Proceedings of the International Confernce the Humanistic Renaissance in Mathematics Education (2002) 285-287. ⑤ Random Generation of $B_m \times$ Contingency Tables,Matsui,T.,Matsui,Y.and Ono,Y.,Proceedings of the International Conference on Statistics, Combinatorics and Related Areas (2001) ⑥ Product Moments of Nested Bootstrap Distributions,Ono,Y.and Niki,N. Bulletin of the 53rd Session of the International Statistical Institute (2001) ⑦ Moments and Product Moments of Bootstrap Distributions.Ono,Y., Hashiguchi,H.and Niki,N.,Bulletin of the 52nd Session of the International Statistical Institute (1999) 63-64. ⑧ On Bootstrap Approximation,Ono,Y.,Niki,N.and Hashiguchi,H.,Proceedings of the 9th Korea and Japan Joint Conference on Statistics (1997) 192-196. 訳本 ① 「応用Mathematica」(2004年9月、新紀元社)
所属学会	日本統計学会、日本計算機統計学会



氏 名	カワハラ カズヨシ 河原 和好 KAWAHARA Kazuyoshi
性 別	男
生 年 月 日	1969年9月8日生
職 名	講師 (1999年4月)
連 絡 方 法	E-mail : kawahara@nuis.ac.jp
学 歴	1993年 信州大学工学部情報工学科卒業 1995年 信州大学大学院工学系研究科博士前期課程情報工学専攻修了 1998年 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程システム開発工学専攻修了
学 位	博士 (工学) (信州大学、1998年3月)
職 歴	1998年4月～1999年3月 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー非常勤 研究員
研 究 分 野	画像処理に関する研究。ファジィ理論の画像処理への応用、コンピュータビジ ョン (ロボット)、3次元画像処理。
主 要 業 績	論文 ①「FINITE TOPOLOGY BASED ON FUZZY TEMPLATES AND ITS APPLICATIONS」(共著)、1994年11月、Proc.of the 1st MAGNETO-ELEC- TRONICS International Symposium、pp.461-464 ②「Image Processing with Fuzzy Set Theory」(共著)、1995年12月 Second Asian Conference On Computer Vision (ACCV'95)、Vol. I、pp.494-498 ③「ファジィ理論を用いた画像処理」(共著)、1997年1月、電子情報通信学会 論文誌 D-II、Vol.J80-D-II、No.1、pp.166-174 ④「Image Processing using Mathematical Morphology and Topology with Fuzzy Set」(共著)、1997年12月、Proc.of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA'97)、Vol.2、pp.1013-1016 ⑤「Fuzzy Image Processing with Topological Theory」(共著)、1997年12月 Proc.of IEEE TENCON'97 (IEEE Region 10 Annual Conference) Speech and Image Technologies for Computing and Telecommunications、Vol.1 pp.333-334 ⑥「Edge Analysis of Digital Mammogram」(共著)、1999年10月、Proc.of 2nd MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium、pp.339-342 ⑦「ファジィ理論を用いた画像の特徴抽出」(単著)、2005年3月、新潟国際情 報大学情報文化学部紀要第8号、pp.169-178
所 属 学 会	電子情報通信学会 情報処理学会 医用画像学会



氏 名	ササキ トウコ 佐々木 桐子 SASAKI Toko
性 別	女
生 年 月 日	1972年2月22日生
職 名	講師 (2001年4月)
連 絡 方 法	E-mail : tohko@nuis.ac.jp
学 歴	1994年 東洋大学経営学部経営学科卒業 1996年 東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了 1996年4月～1998年3月 名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生 2001年 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学
学 位	経営学修士 (東洋大学、1996年3月)
職 歴	2005年～ 新潟大学経済学部非常勤講師
研 究 分 野	より大規模かつ複雑化する生産・ロジスティクスシステムを対象とし、シミュレーション技術を応用した詳細かつ柔軟なモデル構築および解析を行っている。構築したモデルに、既存企業の“as-is”、“to-be”の生産・ロジスティクスシステムに関するデータを入力し、より詳細な比較・検討を行う。 また、動機付け教育を目的として、シミュレーション技術を活用したe-Learningコンテンツの開発および運用を進めている。
主 要 業 績	<p>論文</p> <p>①「ロジスティクスにおけるリエンジニアリング」『東洋大学大学院紀要』第32集, pp.111-137, 1995.</p> <p>②「配車・費用を考慮したロジスティクスシミュレーションのモデル化と解析」『オフィス・オートメーション』Vol.18, No.4-2, pp.99-102, 1997.</p> <p>③「生産・物流システムシミュレーションのモデル化と解析」『オフィス・オートメーション』Vol.18, No.4-2, pp.133-136, 1998.</p> <p>④「ロジスティクスシステムのシミュレーションモデリングと解析」『オフィス・オートメーション』Vol.20, No.3, pp.76-82, 2000.</p> <p>⑤“A Module-Based Simulation Modeling and Management for Supply Chain Systems on Daily Commodities”, Studies in Informatics and Sciences, No.13, pp.81-89, 2001.</p> <p>⑥「動機付け教育を目的としたe-Learningコンテンツの開発」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第9号, pp.131-138, 2006.</p> <p>⑦「高等学校における教科「情報」に関する実態調査および大学入学時の情報リテラシー能力の変化」『オフィス・オートメーション』Vol.27, No.2, pp.69-75, 2006.</p> <p>⑧「シミュレーション演習におけるe-Learningおよび協調学習の適用」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号, pp.107-112, 2007.</p>
所 属 学 会	日本情報経営学会 (旧オフィス・オートメーション学会)
そ の 他	社団法人私立大学情報教育協会経営工学教育IT活用研究委員会委員 (2005.7～)



氏名	ヤマダ ヒサシ 山田 尚史 YAMADA Hisashi
性別	男
生年月日	1970年8月13日生
職名	講師 (2005年4月)
連絡方法	E-mail : yamada@nuis.ac.jp
学歴	1994年 学習院大学経済学部経済学科卒業 2001年 Manchester Business School, University of Manchester, UK MBA Programme 2004年 学習院大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学
学位	経営学修士 (Master of Business Administration)
職歴	1994年～1999年 前田建設工業株式会社 2004年～2005年 学習院大学経済学部非常勤講師
研究分野	専門は経営学。現在は、インターネット市場に関する以下の研究を行っている。 ①インターネット市場と店頭市場の比較 (価格、価格の分散、情報の質等) ②インターネット市場における販売業者の信用の重要性や企業行動の違いについて ③時系列データに基づいたインターネット市場の変化
主要業績	著書 「ケースで学ぶ価格戦略・入門」上田隆穂編、「日本マクドナルド～スケールメリットを追及する装置産業型外食企業の価格・商品戦略」(共著)、有斐閣、pp13-35、2003年。 論文 ①「インターネット市場における販売業者の信用と情報の質に関する実証分析」経営情報学会2004年春季研究発表大会、pp82-85、2004年。 ②「インターネット市場における販売業者の信用と情報の質に関する実証分析」学習院大学大学院経済学研究科・経営学研究科 学習院大学大学院研究論集 第13巻1号、pp1-18、2004年。 ③「インターネット市場の効率性:インターネット市場と店頭市場の価格差とばらつきの比較を通じて」2003年組織学会研究発表大会、pp65-68、2003年。 ④「インターネット市場における価格のばらつきが増大する要因:販売業者の信用の重要性」学習院大学大学院経済学研究科・経営学研究科 学習院大学大学院研究論集 第12巻1号、pp19-37、2003年
所属学会	組織学会 経営情報学会

新潟国際情報大学研究者総覧 2007

2007 年 4 月 発行

編 集：新潟国際情報大学 総務課

発 行：新潟国際情報大学

新潟市西区みずき野 3 丁目 1 番 1 号 〒950-2292

TEL.025-239-3111

FAX.025-239-3690



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies